

# 比 爪 館

第31次・第32次発掘調査報告書

平成27年3月

学校法人紫波学園  
紫波町教育委員会

# 比 爪 館

第31次・第32次発掘調査報告書

学校法人紫波学園  
紫波町教育委員会





# 例 言

1 本書は、岩手県紫波郡紫波町南日詰字箱清水地内に所在する比爪館遺跡第31次調査・第32次調査についての、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査に関する報告書である。

2 調査期間及び調査面積

第31次調査 平成25年8月26日～9月13日 162㎡

第32次調査 平成25年9月24日～12月2日 660㎡

3 調査主体 紫波町教育委員会 教育長 侘美 淳  
調査体制 紫波町教育委員会事務局 教育部長 小田中 健  
同生涯学習課 課長 高橋 正  
室長 谷地 和也  
主事 岩館 岳  
文化財専門調査員 鈴木 賢治

本書の執筆・編集は鈴木 賢治が担当した。

4 本書報告書の作成にあたっては、下記の方々にご指導・ご協力頂いた。(五十音順・敬称略)  
井上雅孝(滝沢市教育委員会)、川又 晋(岩手県立博物館)、佐藤正樹(学校法人紫波学園)、  
似内啓邦(盛岡市教育委員会)、羽柴直人(岩手県立博物館)、室野秀文(盛岡市教育委員会)、  
プラス測量設計(座標測量・平面実測)

5 土層図は、堆積の状況を重視し線の太さを使い分けた。土層注記は層理ごとに本分でふれ、個々の層位については割愛した。層相の色相観察は、小山・竹原著「新版標準土色帖」を使用した。

6 各遺構と遺構記号は次の通り。

遺構名	竪住居跡	井戸跡	溝跡	土坑跡	柱穴
記号	SI	SE	SD	SK	SP

7 本書に記載した地形図は、国土地理院発行の5万分の1日詰を称した。

8 座標数値 基1 X = - 51508.007, Y = 28528.142 基2 X = - 51533.312, Y = 28621.727

9 高さは標高地をそのまま使用した。

10 調査で得られた一切の資料、出土遺物、写真撮影、遺構実測図、遺物実測図は紫波町教育委員会において保管している。

11 現場作業員及び室内整理作業員は下記の方々に参加・ご協力頂いた。(五十音順・敬称略)

浅川慶輝、稲垣淳子、小澤功子、小野翔太、熊谷正男、佐藤清光、高橋洸介、橘 孝子、藤原 求、  
松岡好一、八重樫ひとみ

# 目 次

例 言		2 調査の概要	4
目 次		(1) 過去の調査	4
本文目次		(2) 調査に至る経過	7
表目次		3 第31次調査の概要	8
挿図目次		(1) 検出遺構	9
写真図版		(2) 出土遺物	17
抄 録		4 第32次調査の概要	20
1 遺跡の環境	1	(1) 検出遺構	21
(1) 位置	1	(2) 出土遺物	36
(2) 地形と地質	1	5 総括	45
(3) 周辺の遺跡	2		

## 挿 図 目 次

第1図	比爪館跡位置図 (1:50,000)	1
第2図	周辺の遺跡位置図 (1:10,000)	3
第3図	比爪館遺跡 遺構配置図 (1:1,200)	5, 6
第4図	比爪館跡調査区域図 (1:1,500)	7
第5図	第31次調査区 全景 (1:400)	8
第6図	SI-071 竪穴住居跡 平面図・断面図 (1:50)	9
第7図	SD-052～SD-054 溝跡 平面図 (1:50)	12
第8図	SD-055～SD-057 溝跡 平面図 (1:50)	13
第9図	SK-182・SK-183 土坑跡 平面図 (1:50)	14
第10図	SD-052～SD-057・SK-182・SK-183 平面図・断面図 (1:50)	15
第11図	出土遺物① (1:3)	19
第12図	第32次調査区 全体図 (1:300)	20
第13図	SI-072 竪穴住居跡・P-01 柱穴 平面図・断面図 (1:50)	21
第14図	SE-038～SE-041 井戸跡 平面図・断面図 (1:50)	23
第15図	SD-058～SD-060、SD-064 溝跡 全体図 (1:100)	26
第16図	SD-061～SD-063 溝跡 平面図 (1:100)、 SD-058～SD-064 溝跡 断面図 (1:50)	27
第17図	SK-184～SK-189 土坑跡 平面図・断面図 (1:50)	30
第18図	SK-190～SK-193・NO-028 土坑跡・陥し穴遺構 平面図・断面図 (1:50)	31
第19図	P-01～P-044 柱穴 断面図 (1:100)	35
第20図	出土遺物② (1:3)	40

第21図	出土遺物③ (1:3)	41
第22図	出土遺物④ (1:3)	42
第23図	出土遺物⑤ (1:3)	43
第24図	出土遺物⑥ (1:3)	44

## 表 目 次

表 1	周辺の遺跡一覧表	2
表 2	比爪館遺跡調査回数一覧表	4
表 3	SD-052～SD-056 埋土注記一覧表①	16
表 4	SD-057・SK-182・SK-183 埋土注記一覧表②	17
表 5	出土遺物一覧表	18
表 6	SE-038～SE-041 埋土注記一覧表	32
表 7	SD-058～SD-064 埋土注記一覧表	33
表 8	SK-184～SK-193 埋土注記一覧表	34
表 9	NO-028 埋土注記一覧表	35
表10	出土遺物一覧表①	38
表11	出土遺物一覧表②	39

## 写 真 図 版

第 1 図版	比爪館遺跡 空撮 (南から)
第 2 図版	第 31 次・32 次調査区 全景
第 3 図版	第 31 次調査 竪穴住居跡、土坑跡、溝跡
第 4 図版	第 31 次調査 溝跡、竪穴住居跡、出土遺物状況
第 5 図版	第 32 次調査 竪穴住居跡、井戸跡、出土遺物状況
第 6 図版	第 32 次調査 井戸跡、出土遺物状況
第 7 図版	第 32 次調査 溝跡、陥し穴状遺構、出土遺物状況
第 8 図版	第 32 次調査 溝跡、土坑跡、出土遺物状況
第 9 図版	第 31 次調査 出土遺物①
第10図版	第 32 次調査 出土遺物②
第11図版	第 32 次調査 出土遺物③
第12図版	第 32 次調査 出土遺物④
第13図版	第 32 次調査 出土遺物⑤
第14図版	第 32 次調査 出土遺物⑥



# 1 遺跡の環境

## (1) 位置

本遺跡は、JR 東北線日詰駅の南東約 500m、岩手県紫波郡紫波町南日詰字箱清水地内の中位花巻段丘相当面上に位置する。遺跡範囲は南北約 340m、東西約 320m と推定される。

## (2) 地形と地質

本遺跡の東側約 900m には、紫波町の中央を縦断するように北上川が南流している。町内における平地は、西側一帯は奥羽山脈から流れ出て北上川に注ぐ滝名川・大坪川・五内川等の中小河川群によって、広く扇状地や氾濫低地が形成されており、そこに顕著に段丘面が形成されている。また、北上川の東部においては、北上山地の丘陵郡との間に狭隘な段丘が形成されるのみである。これら北上川中流域西側の扇状地性段丘は、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘と大きく三分類されるが、紫波町内で相当するものとして、石鳥谷段丘・二枚橋段丘（花巻段丘相当）・都南段丘と命名された段丘群が知られている。



第 1 図 比爪館遺跡位置図 (1 : 50,000)



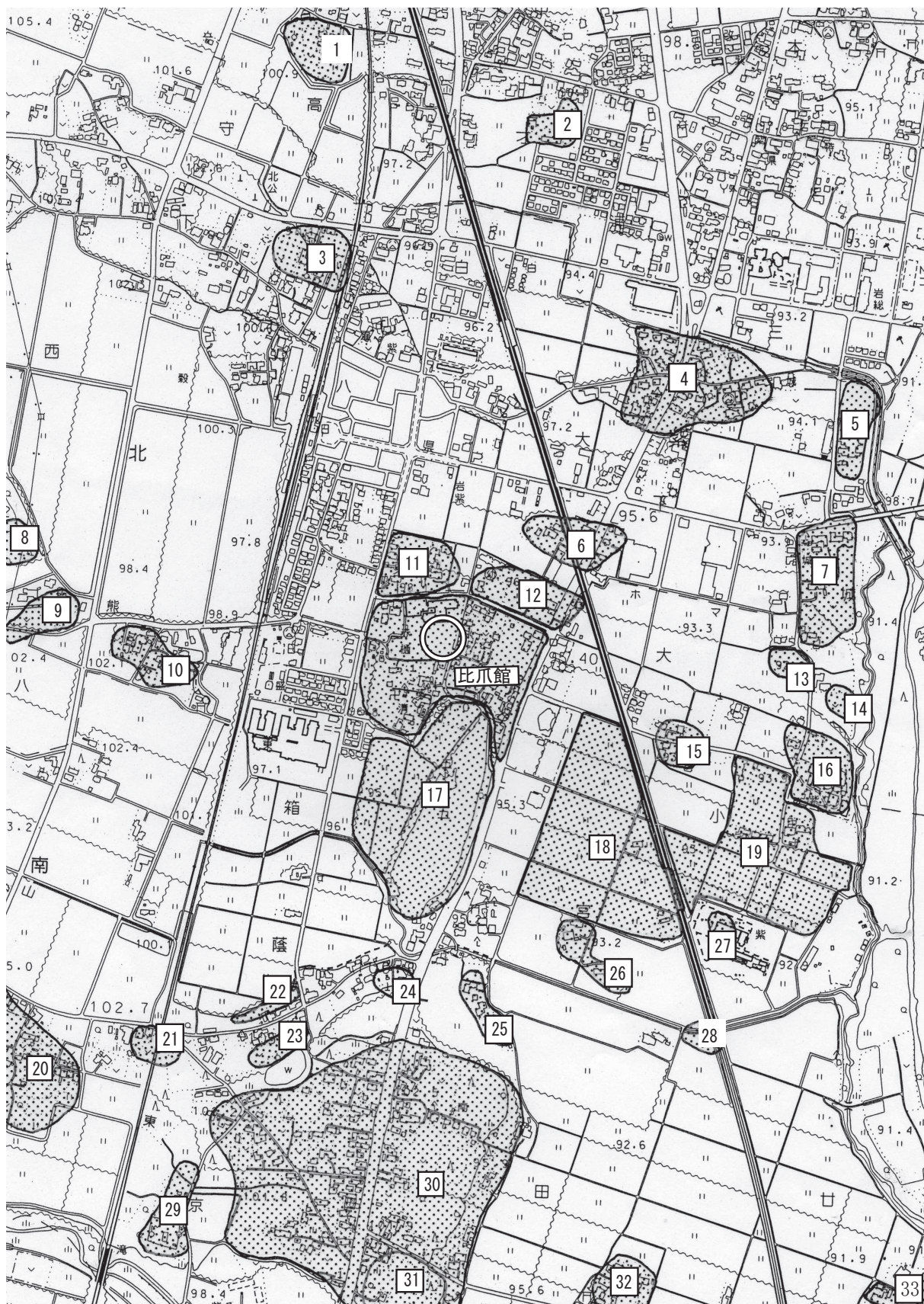
### (3) 周辺の遺跡

当遺跡の北に北日詰東ノ坊Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡、東に南日詰小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡、南に南日詰遺跡などが所在する。また、紫波町内には県指定史跡である川原毛瓦窯跡、舟久保洞窟、町指定史跡である高水寺城跡、陣ヶ岡陣営跡など貴重な遺跡が多く在存する。

次数	遺跡名	所在	種別	遺構・遺物
1	桜町田頭	桜町字田頭、字高木	散布地	土師器、須恵器
2	才土地	桜町字才土地	集落跡	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土師器、須恵器
3	北日詰下藪	北日詰字下藪	散布地	土師器
4	大日堂	北日詰字大日堂	集落跡	かわらけ
5	北日詰城内Ⅱ	北日詰字城内	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器
6	北日詰東ノ坊Ⅱ	北日詰字東ノ坊、下東ノ坊	散布地	土師器、かわらけ
7	北条館	北日詰字城内	城館跡	土師器
8	北日詰外谷地Ⅳ	北日詰字外谷地	散布地	石器
9	北日詰外谷地Ⅴ	北日詰字外谷地	散布地	土師器、陶器
10	北日詰八卦	北日詰字八卦	散布地	土師器、須恵器
11	北日詰東ノ坊Ⅰ	北日詰字東ノ坊	散布地	土師器、須恵器、かわらけ
12	北日詰東ノ坊Ⅲ	北日詰字東ノ坊	散布地	かわらけ
13	北日詰下東ノ坊	北日詰字下東ノ坊、城内	散布地	土師器、白磁
14	北日詰城内Ⅰ	北日詰字城内	散布地	土師器、須恵器
15	南日詰大銀Ⅰ	南日詰字大銀、字小路口	散布地	土師器、かわらけ
16	南日詰大銀Ⅱ	北日詰字小路口	散布地	土師器、須恵器
17	五郎沼	南日詰字箱清水	散布地	縄文土器、かわらけ
18	南日詰小路口Ⅱ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ、須恵器、磁器
19	南日詰小路口Ⅰ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ、須恵器、磁器
20	南日詰京田Ⅰ	南日詰字京田	散布地	縄文土器、土師器、須恵器
21	南日詰京田Ⅱ	南日詰字京田	散布地	土師器、須恵器
22	南日詰蔭沼Ⅰ	南日詰字蔭沼	散布地	土師器
23	南日詰蔭沼Ⅱ	南日詰字蔭沼	散布地	土師器
24	伝蛇塚	南日詰字箱清水	経塚	珠州系壺
25	南日詰田中Ⅰ	南日詰字田中	散布地	須恵器
26	南日詰宮崎	南日詰字宮崎	散布地	土師器
27	南日詰小路口Ⅲ	南日詰字宮崎	散布地	土師器
28	南日詰田中Ⅱ	南日詰字甘木	散布地	土師器
29	南日詰京田Ⅲ	南日詰字京田	散布地	土師器
30	南日詰	南日詰字蔭沼、字京田、字滝名川、字田中	散布地	縄文土器、土師器、かわらけ、須恵器
31	伝善知鳥館	南日詰字滝名川	城館跡	空堀、土塁、柵列、縄文土器、土師器
32	南日詰滝名川Ⅴ	南日詰字滝名川、字甘木	散布地	縄文土器
33	南日詰八坂	南日詰字八坂	散布地	須恵器

表 1 周辺の遺跡一覧表





第 2 図 周辺の遺跡位置図 (1:10,000)



## 2 調査の概要

### (1) 過去の調査

当遺跡は、奥州藤原氏の一族の居館跡として周知の所である。考古学的な発掘調査は、1965年の板橋源氏（岩手大学）の調査を始まりとし、第1次調査から第5次調査まで実施している。その後、紫波町教育委員会が主体となり、遺跡の範囲確認調査や開発行為に伴う緊急発掘調査を、第30次調査まで実施している。これまでに検出された遺構は、掘立柱建物跡23棟、竪穴住居跡70棟、土坑跡181基、溝跡51条、井戸跡37基、陥し穴27基、焼土遺構・その他12基、柱穴は多数検出している。

次数	住 所 地	調査原因	面積	期 間	検 出 遺 構
第1	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	学術調査	230㎡	S40.11.18～11.21	掘立柱建物跡2、竪穴住居跡2、土坑2
第2	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	校庭整備	500㎡	S47.7.20～7.29	掘立柱建物跡1、竪穴住居跡2、溝跡4
第3		学術調査			
第4	紫波町南日詰箱清水163地内	学術調査	55㎡	S49.11.6～11.20	竪穴住居跡2、土坑1
第5	紫波町南日詰箱清水160-2地内		63㎡	S50.11.10～11.18	
第6	紫波町南日詰箱清水169-6地内	町道改良	370㎡	S57.7.12～9.7	竪穴住居跡3、土坑9、溝跡6、井戸跡1
第7	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	校舎建設	356㎡	S60	掘立柱建物跡3、竪穴住居跡3、土坑6、溝跡7、井戸跡2
第8	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	校舎建設	355㎡	S62	掘立柱建物跡2、竪穴住居跡1、土坑3、溝跡2、井戸跡2、陥し穴5
第9	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	校舎建設	2,060㎡	S63.5.16～12.10	掘立柱建物跡9、竪穴住居跡38、土坑60、溝跡6（大溝1）、井戸跡2、陥し穴5、焼土遺構10基
第10			2,100㎡	H1.3.29～12.12	
第11	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	校舎建設	76㎡	H2.5.27～6.30	竪穴住居跡2、土坑5、溝跡3、陥し穴1
第12	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	校舎建設	465㎡	H2.5.27～6.30	竪穴住居跡2、陥し穴2（*大溝1）
第13	紫波町南日詰箱清水540-4地内	範囲確認	36㎡	H3.9.24～9.30	（*29次調査と重複）
第14	紫波町南日詰箱清水540-1地内	下水道関連	350㎡	H3	なし。（試掘調査）
第15	紫波町南日詰箱清水地内	下水道関連	350㎡	H4	なし。（試掘調査）
第16	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	校舎建設	415㎡	H4.6.4～7.28	竪穴住居跡3、土坑15、井戸跡2、陥し穴1
第17	紫波町南日詰箱清水164-2番地内	倉庫建設	167㎡	H5	溝跡2
第18	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	校舎建設	255㎡	H6.9.15～10.22	土坑9、溝跡2、井戸跡1
第19	紫波町南日詰箱清水164-4番地内	下水道関連	15㎡	H6	溝跡1
第20	紫波町南日詰箱清水160-1番地内	宅地造成	525㎡	H8	土坑13（*大溝1）
第21	紫波町南日詰箱清水161-2地内	個人住宅	123㎡	H9	柱穴（近世）
第22	紫波町南日詰箱清水12-3地内	個人住宅	94㎡	H9	井戸跡1（*大溝1）
第23	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	町道改良	807㎡	H11	掘立柱建物跡6、竪穴住居跡4、土坑45、溝跡9、井戸跡7、陥し穴6
第24	紫波町南日詰箱清水地内（小学校内）	校舎建設	702㎡	H12	土坑45、溝跡9、井戸跡7、陥し穴6
第25	紫波町南日詰箱清水190-2番地内	倉庫建設	20㎡	H15.5.9～5.14	竪穴住居跡2、土坑1
第26	紫波町南日詰箱清水169-4地内	集会所建設	216㎡	H16.9.13～11.12	竪穴住居跡4、土坑6、溝跡3、焼土遺構1基
第27	紫波町南日詰箱清水187-1地内	倉庫建設	28㎡	H21.4.27～5.19	竪穴住居跡1、土坑1、井戸跡1
第28	紫波町南日詰箱清水地内	下水道関連	30.4㎡	H21.6.20～8.30	溝跡3条、土坑跡1基、柱穴
第29	紫波町南日詰箱清水540-4	下水道関連	72㎡	H23.10.3～10.19	土坑2基、井戸跡1基、焼土遺構1基、柱穴
			74㎡	H24.5.7～5.23	溝跡4条、井戸跡1基、柱穴
第30	紫波町南日詰箱清水187-1	個人住宅	275㎡	H24.7.2～7.31	竪穴住居跡1棟、溝跡1条、土坑跡2基、土塁状遺構、池跡1ヵ所、柱穴

表2 比爪館遺跡調査次数一覧表



第3図 比爪館遺跡 遺構配置図 (1:1,200)

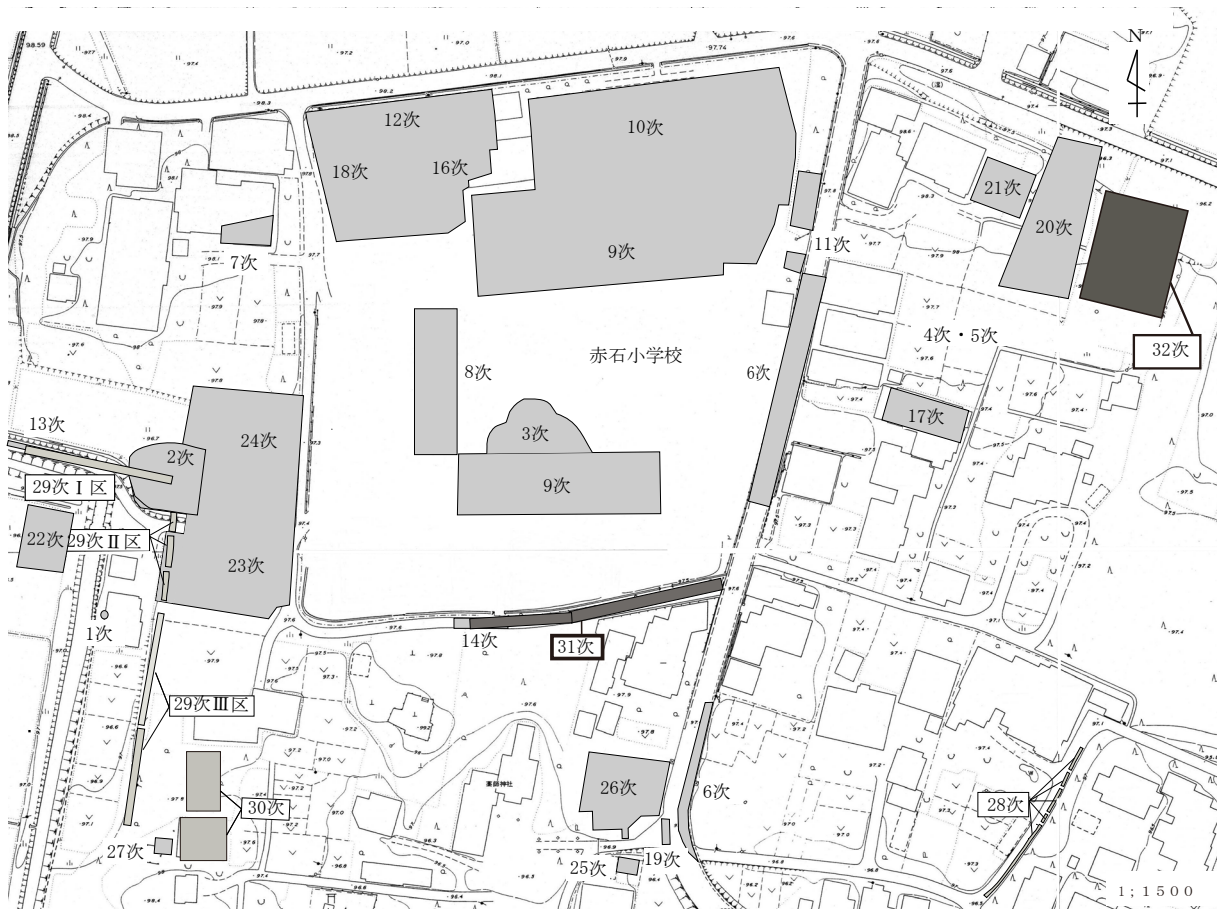
遺跡範囲

五郎沼

国道4号

赤石小学校





第 4 図 比爪館遺跡調査区域図 (1 : 1,500)

## (2) 調査に至る経過

### ・第 31 次発掘調査

町道箱清水 8 号線上水道配水管更新工事に伴い、その事業区域内に比爪館遺跡が存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

紫波町水道事業所から平成 25 年 6 月 18 日付で文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘届出の提出があり、平成 25 年 6 月 19 日付で岩手県教育委員会から工事着手前の試掘調査の勧告があった。その後、紫波町水道事業所の依頼を受けて平成 25 年 8 月 25 日に試掘調査を実施した。調査の結果、遺構等が確認されたため、紫波町教育委員会は紫波町水道事業所と協議を行い、平成 25 年 8 月 26 日より記録保存調査に着手した。

### ・第 32 次発掘調査

学校法人紫波学園の実施する保育所施設及び駐車場建設工事に伴い、その事業区域内に比爪館遺跡が存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

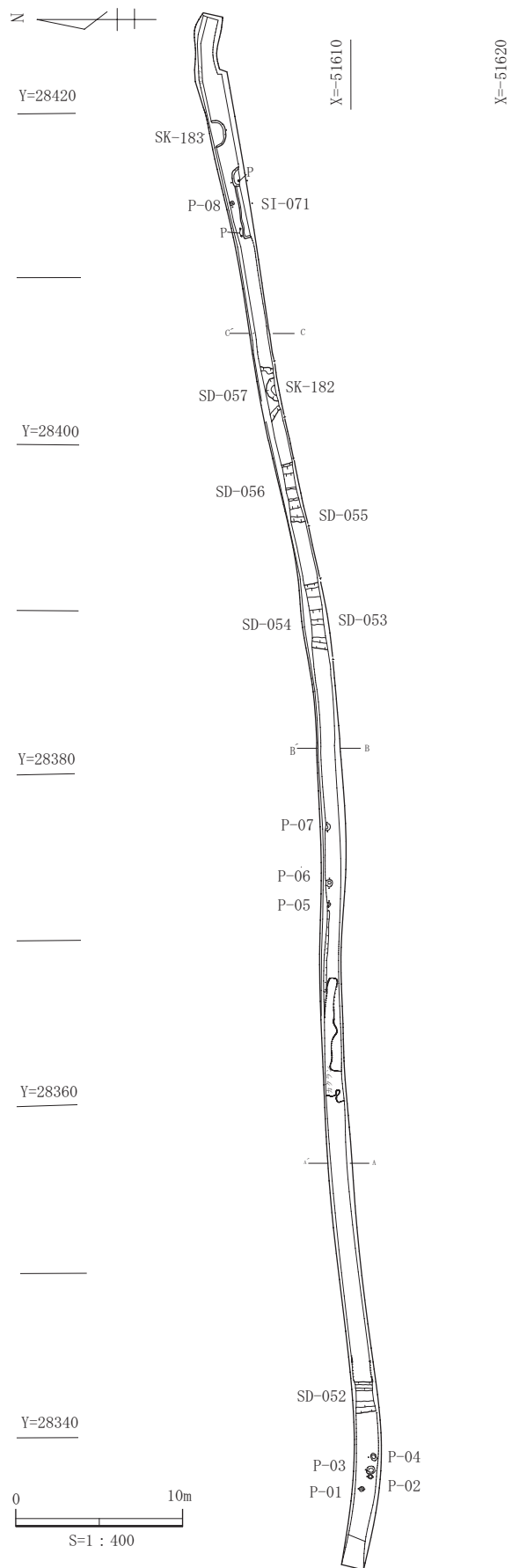
学校法人紫波学園から平成 25 年 8 月 26 日付で文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘届出の提出があり、平成 25 年 8 月 28 日付で岩手県教育委員会から工事着手前の試掘調査の通知があった。その後、学校法人紫波学園の依頼を受けて平成 25 年 9 月 24 日に試掘調査を実施した。調査の結果遺構等が確認されたため、紫波町教育委員会は学校法人紫波学園と協議を行い、同日付で記録保存調査に着手した。

### 3 第31次調査の概要

位 置 町立赤石小学校校庭の南辺に隣接する地点で、幅 1.20m、長さ 9.42m を調査した。

検出遺構 SI-071 竪穴住居跡 1 棟、SD-052 ~ SD-057 溝跡 6 条、SK-182・SK-183 土坑跡、P-01 ~ P-08 柱穴 8 口である。

出土遺物 かわらけ、あかやき土器坏・甕、土師器坏・甕、北陸型甕、中国産磁器、須恵器大甕、その他。

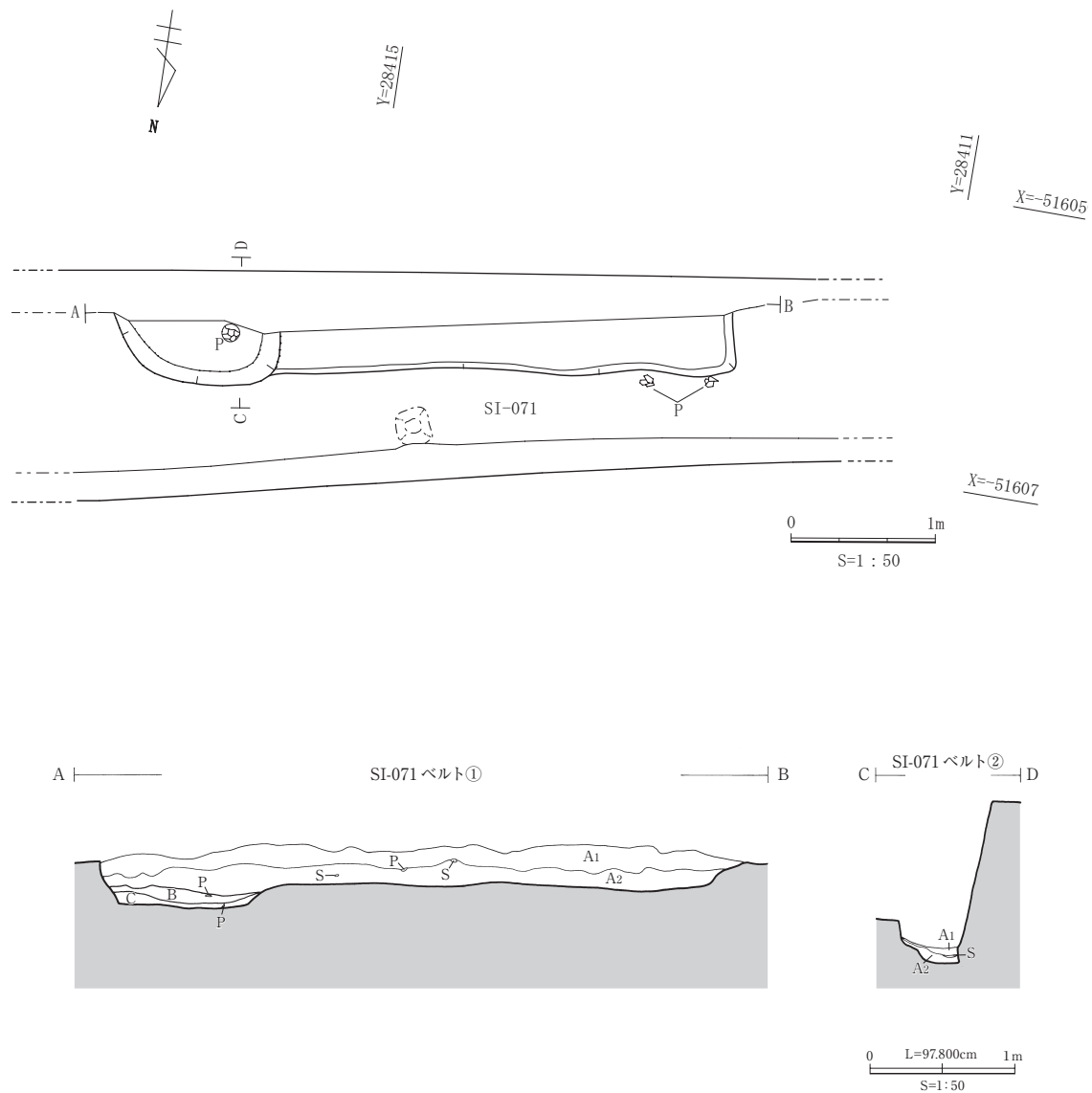


第 5 図 第31次調査区 全景 (1 : 400)

(1) 検出遺構

SI-071 竪穴住居跡 (第 6 図)

位置 調査区南側。 平面形 隅丸方形。 主軸方向 N3° E。  
 重複関係 なし。 掘込面 削平。 検出面 黄褐色シルト層上面。  
 規模 南北上端 4.46m・下端 4.06m。 東西上端 0.45m 以上・下端 0.33m 以上をはかる。  
 埋土 自然堆積。 A 層。 A 層は 2 層に細分する。 A 層は黒褐色土を主体とする。  
 壁の状況 検出面から床面までの深は 0.16m ~ 0.14m で、壁は外傾して立ち上がる。  
 床の状況 ほぼ平坦。黄褐色シルト層を床面としている。  
 カマド・燃烧部 調査区外。  
 柱穴 床面上で 1 口を検出。規模は、1.06m ~ 0.44m 以上で、深さ 0.19m をはかる。  
 出土遺物 あかやき土器坏、土師器坏・甕。



第 6 図 SI-071 竪穴住居跡 平面図・断面図 (1 : 50)

### SD-052 溝跡 (第 7 図)

位 置 調査区西側。 平面形 U字形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層。  
規 模 上端 1.88m ～ 1.74m、下端 0.62m ～ 0.58m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A層～E層に大別し、B層は2層に細分する。A層・C層・D層は黒色土～黒褐色土、B層・E層は褐色土～にぶい黄褐色土を主体とする。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.54mをはかり、緩やかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。

### SD-053 溝跡 (第 7 図)

位 置 調査区中央。 平面形 L字形。 重複関係 SD-054 を切る。  
掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層。  
規 模 上端 1.58m ～ 1.64m、下端 0.54m ～ 0.60m をはかる。  
埋 土 A層～D層に大別し、A層は2層に細分する。A層・C層・D層は、にぶい黄褐色土～明黄褐色土、B層は黒色土を主体とする。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.83mをはかり、外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 かわらけ。

### SD-054 溝跡 (第 7 図)

位 置 調査区中央。 平面形 L字形。 重複関係 SD-053 に切られる。  
掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層。  
規 模 上端 2.32m ～ 2.54m、下端 1.61m ～ 1.78m をはかる。  
埋 土 A層～E層に大別し、B層・D層は2層に細分する。A層・C層は灰黄褐色土～にぶい黄褐色土、B層・D層・E層は、黒色土～黒褐色土を主体とする。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.88mをはかり、外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 かわらけ。

### SD-055 溝跡 (第 8 図)

位 置 調査区中央。 平面形 U字形。 重複関係 SD-56 を切る。  
掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層。  
規 模 上端 2.02m ～ 2.14m、下端 0.52m ～ 0.57m をはかる。  
埋 土 A層～F層に大別し、B層2層に細分する。A層・D層はにぶい黄褐色土、B層・C層・E層・F層は、黒色土～黒褐色土を主体とする。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.74mをはかり、外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。

### SD-056 溝跡 (第 8 図)

位 置 調査区中央。 平面形 U字形。 重複関係 SD-055 に切られる。  
掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層。  
規 模 上端 1.48m ～ 1.54m、下端 1.28m ～ 2.03m をはかる。  
埋 土 A層～D層に大別し、A層・C層は2層に細分する。A層、黒褐色土、B層～D層は、褐色土～明黄褐色土を主体とする。

壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.42mをはかり、緩やかに立ち上がる。

底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 かわらけ。

#### SD-057 溝跡 (第 8 図)

位置 調査区東側。 平面形 U字形。 重複関係 SK-182 に切られる。

掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層。

規模 上端 3.38m ~ 2.52m、下端 1.28m ~ 1.68mをはかる。

埋土 A層~D層に大別し、A層・B層は2層に細分する。A層、黒色土、B層~D層は、にぶい黄褐色土~明黄褐色土を主体とする。

壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.74mをはかり、緩やかに立ち上がる。

底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 北陸型甕、あかやき土器 坏・甕、

#### SK-182 土坑跡 (第 9 図)

位置 調査区東側。 平面形 楕円形。 重複関係 SD-057 を切る。

掘込面 削平。 検出面 黄褐色シルト層上面。

規模 東西上端 1.42m、下端 0.68mをはかる。

埋土 A層~D層に大別する。C層は2層に細分する。A層・B層は、黒褐色土~褐色土、C層・D層は、にぶい黄褐色土~明黄褐色土を主体とする。

壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.74mをはかる。緩やかに外傾し立ち上がる。

底面の状況 やや平坦。 出土遺物 なし。

#### SK-183 土坑跡 (第 9 図)

位置 調査区東側。 平面形 円形。 重複関係 なし。

掘込面 削平。 検出面 黄褐色シルト層上面。

規模 東西上端 0.64m、下端 0.6mをはかる。

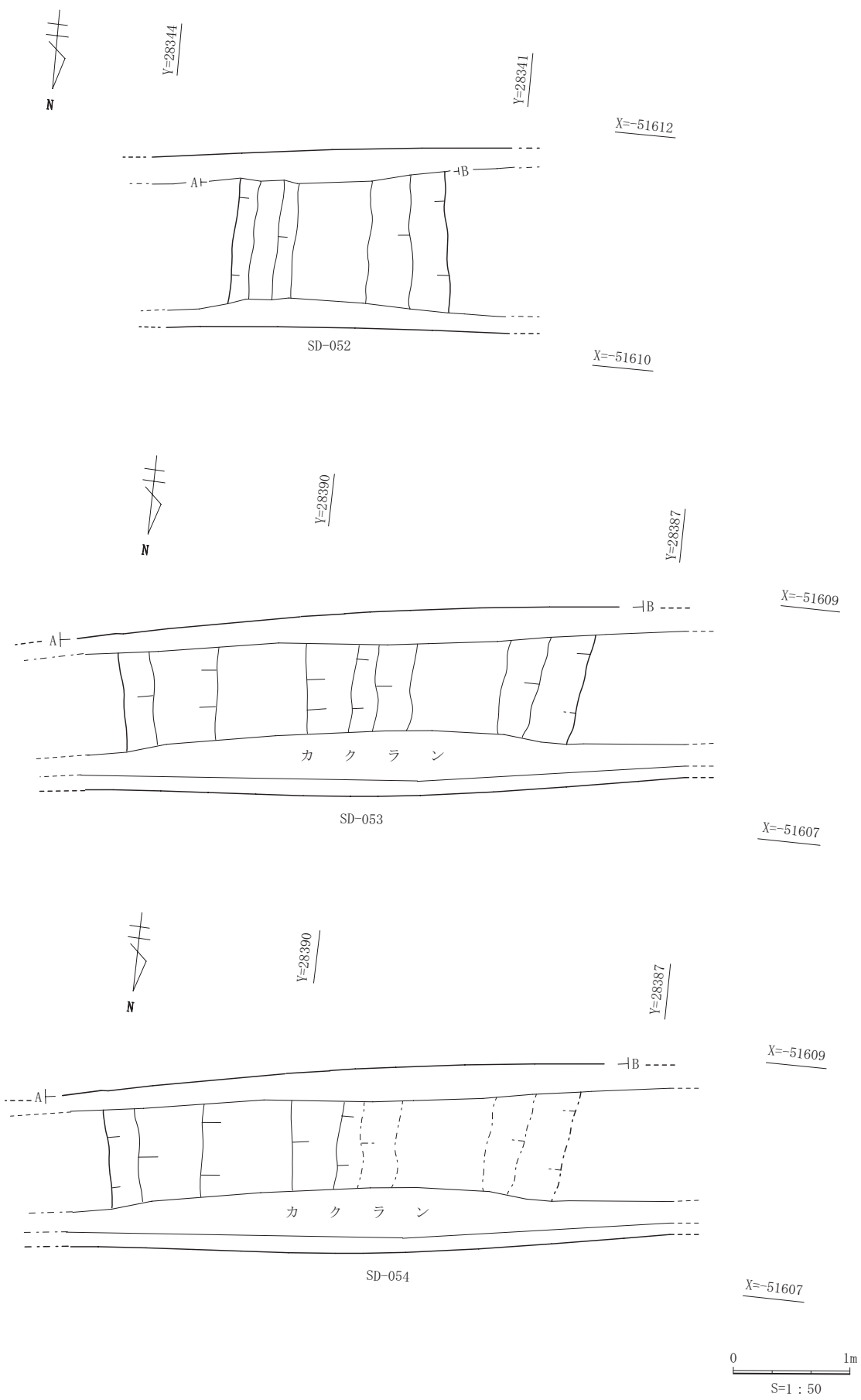
埋土 A層。A層は2層に細分する。黄橙色土を主体とする。

壁の状況 検出面から底面までの深さは、0.13mをはかる。ほぼ垂直に立ち上がる。

底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。

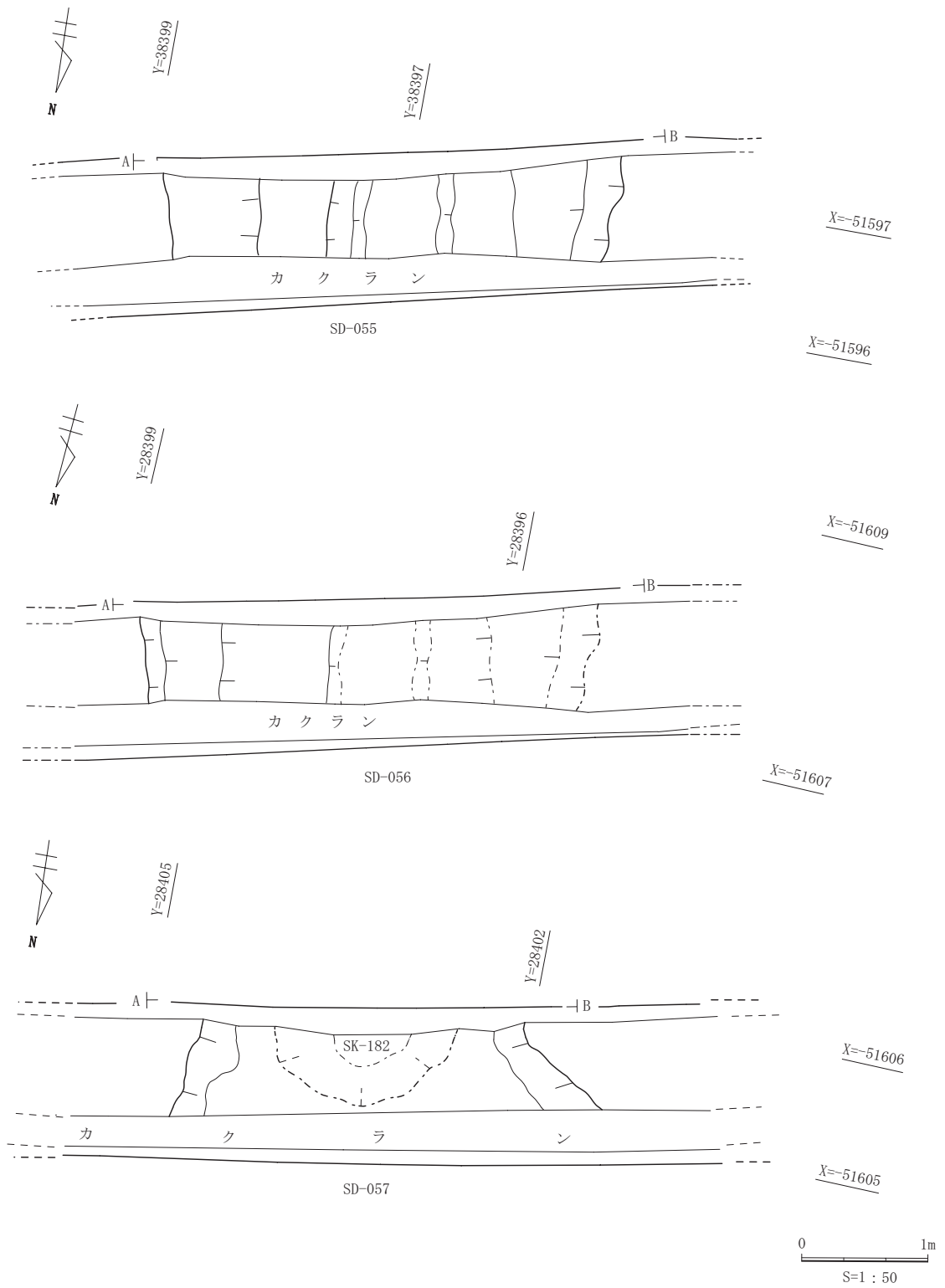
#### P-01 ~ P-08 柱穴

各柱穴の深さは次のとおりである。 P-01 - 0.14m、P-02 - 0.28m、P-03 - 0.30m、P-04 - 0.22m、P-05 - 0.15m、P-06 - 0.45m、P-07 - 0.20m、P-08 - 0.27mをはかる。

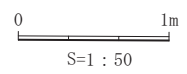
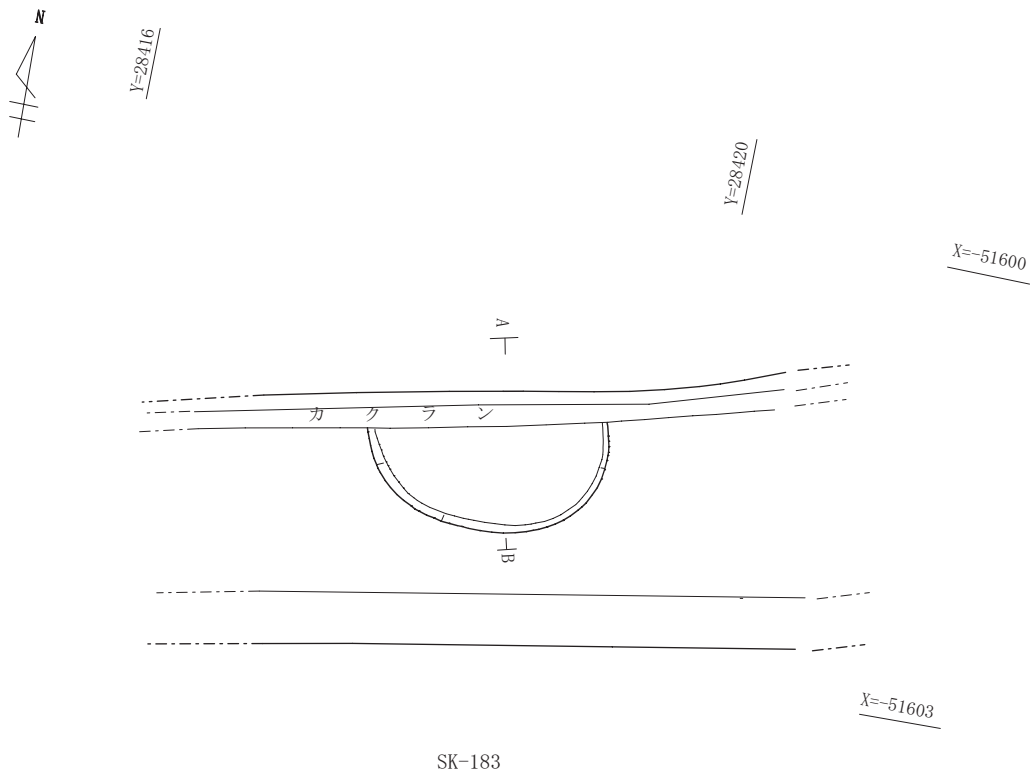
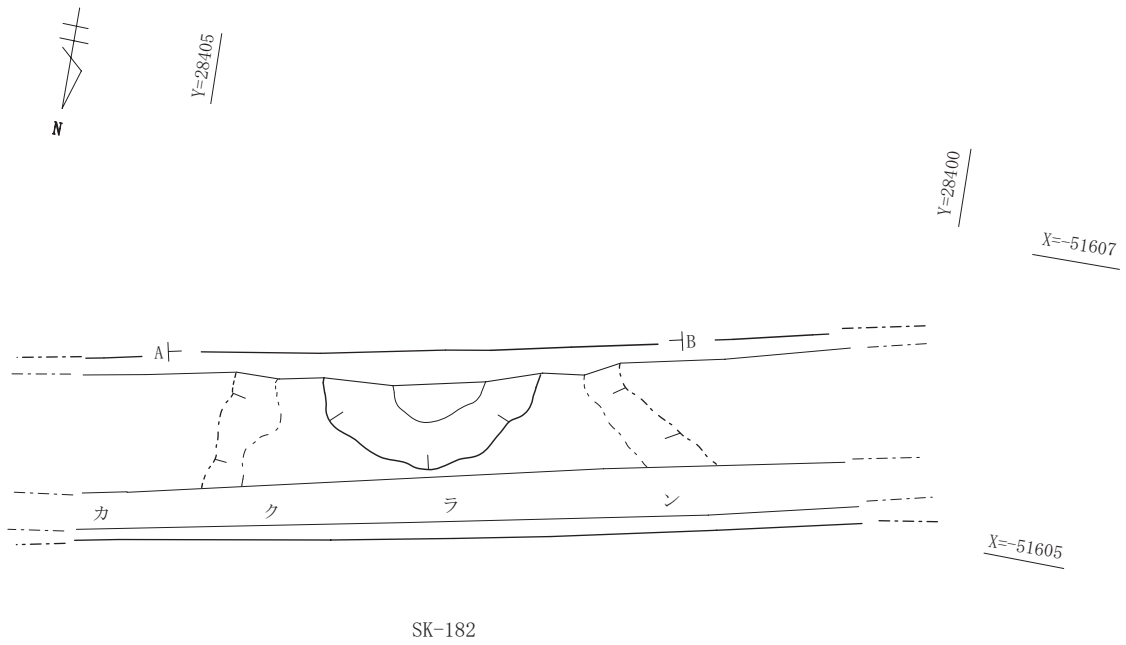


第 7 図 SD-052 ~ SD-054 溝跡 平面図 (1 : 50)

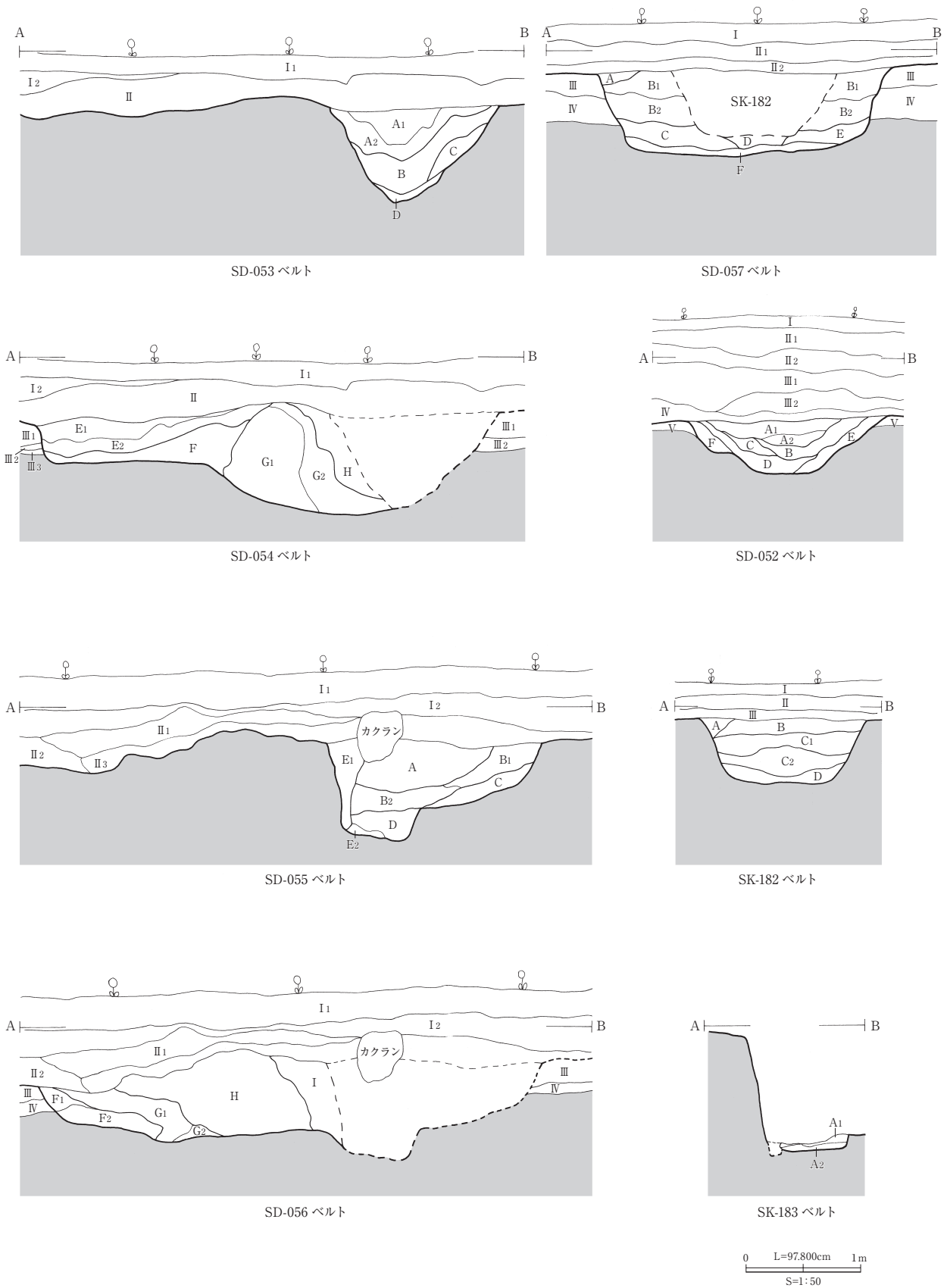




第 8 図 SD-055 ~ SD-057 溝跡 平面図 (1 : 50)



第 9 図 SK-182・SK-183 土坑跡 平面図 (1 : 50)



第10図 SD-052～SD-057・SK-182・SK-183 平面図・断面図（1：50）

## SD-052

I～II層	現代の表土（碎石）・旧表土。
Ⅲ～V層	古代以前の堆積土。
A1 層	褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に土器小片を含み締まりは中。
A2 層	褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に微細土器を含み締まりは中。
C 層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状にカーボンを含み締まりは中。
D 層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは弱。
E 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

## SD-053

A1 層	にぶい黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
A2 層	にぶい黄褐色土を主体に、黒色土を粉状～粒状に締まりは中。
B 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは弱。
C 層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SD-054

E1 層	暗褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
E2 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F 層	黄橙色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。粘土質。
G1 層	明黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。粘土質。
G2 層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。粘土質。
H 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

## SD-055

A 層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B1 層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B2 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黒褐色土を主体に、暗赤褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	にぶい赤褐色土を主体に、橙色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは強。
E1 層	黒褐色土を主体に、黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
E2 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SD-056

F1 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F2 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは弱。
G1 層	黄橙色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。粘土質。
G2 層	黄橙色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。粘土質。
H 層	黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。粘土質。
I 層	にぶい黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

表 3 SD-052～SD-056 埋土注記一覧表①

## SD-057

A 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B1 層	黒色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B2 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黄橙色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	明赤褐色土を主体に、にぶい橙色土を粒状～塊状に少礫を含み締まりは強。
E 層	黒褐色土を主体に、にぶい橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
F 層	暗褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

## SK-182

A 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に少礫を含み締まりは中。
C1 層	明黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に少礫を多く含み締まりは強。
C2 層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に少礫を多く含み締まりは強。
D 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SK-183

A1 層	黄橙色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
A2 層	黄橙色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表 4 SD-057・SK-182・SK-183 埋土注記一覧表②

## (2) 出土遺物

今回の調査では、かわらけコンテナ 1 箱、あかやき土器・土師器・須恵器・その他合わせてコンテナ 2 箱が出土した。その内、実測可能な出土遺物 22 点を図化し掲載した。

## 1) かわらけ (第 11 図)

SD-053 溝跡から 1 点。8 はロクロ成形で、口径 8.5cm をはかり回転糸切り無調整である。SD-054 溝跡から 1 点。3 はロクロ成形で、口径 8.2cm をはかり回転糸切り無調整である。口縁部に少量のタールが付着する。SD-056 溝跡から 2 点。1・2 はロクロ成形で、口径 6.7cm・7.5cm をはかり回転糸切り無調整である。検出面から 7 点。4・5・6・7・9・10 はロクロ成形、11 は手づくねである。口径 7.6cm～13.6cm をはかり回転糸切り無調整である。

## 2) 土師器・須恵器・あかやき土器 (第 11 図)

SI-071 竪穴住居跡から 4 点。16・17 はあかやき土器坏で、口径 12.2cm・11.8cm をはかり回転糸切り無調整である。22 は土師器坏で、口径 11.8cm をはかり回転糸切り無調整である。内面内黒ヘラミガキを施す。19 は土師器甕で、口径 22.0cm をはかる。口縁ヨコナデ、外面ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヘラナデを施す。SD-057 溝跡から 2 点。15 はあかやき土器坏で、口径 11.2cm をはかり回転糸切り無調整である。18 はあかやき土器甕で、口径 19.8cm をはかり内外面ヨコナデを施す。検出面から 2 点。12 は須恵器大甕の体部片で外面平行タタキ痕を残す。21 はあかやき土器坏で、口径 14.4cm をはかり回転糸切り無調整である。

## 3) 北陸型甕 (第 11 図)

SD-057 溝跡から 2 点。13・14 は北陸型甕片で、外面に縦状に平行タタキ痕、内面は横状に平行タタキ痕を施す。

## 4) 中国産磁器 (第 11 図)

検出面から 1 点。20 は白磁で、灰白色の釉を施す。

かわらけ

番号	遺構名	出土位置	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
1	SD-056	B層	ロクロ	6.7	4.8	1.7	60%	口～底部。回転糸切り無調整。
2	SD-056	A層	ロクロ	7.5	5.1	1.5	45%	口～底部。回転糸切り無調整。
3	SD-054	B層	ロクロ	8.2	6.8	1.6	70%	口～底部。回転糸切り無調整。
4	—	検出	ロクロ	8.2	5.6	5.5	35%	口～底部。回転糸切り無調整。
5	—	検出	ロクロ	—	5.0	0.5以上	35%	体～底部。回転糸切り無調整。
6	—	検出	ロクロ	7.6	5.8	1.5	45%	口～底部。回転糸切り無調整。
7	—	検出	ロクロ	—	5.0	0.7以上	60%	体～底部。回転糸切り無調整。
8	SD-053	A層	ロクロ	8.5	6.4	1.5	30%	口～底部。回転糸切り無調整。
9	—	検出	ロクロ	—	7.8	1.4以上	40%	体～底部。回転糸切り無調整。
10	—	検出	ロクロ	13.6	9.0	2.6	30%	口～底部。回転糸切り無調整。
11	—	検出	手づくね	10.2	6.9	2.1	25%	口～底部。

土師器・あかやき土器

番号	遺構名	出土位置	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
15	SD-057	C層	あかやき坏	11.2	—	3.6以上	15%	口～体部。
16	SI-071	A層	あかやき坏	12.2	4.6	4.4	99%	口～底部。回転糸切り無調整。
17	SI-071	A層	あかやき坏	11.8	—	4.2以上	35%	口～体部。
18	SD-057	D層	あかやき甕	19.8	—	3.4以上	5%	口～体部。口縁ヨコナデ。
19	SI-071	B層	土師器甕	22.0	—	9以上	10%	口～体部。口縁ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ。
21	—	検出	あかやき坏	14.4	5.8	4.0	70%	口～底部。回転糸切り無調整。
22	SI-071	B層	土師器坏	11.8	—	5以上	30%	口～体部。内面内黒ヘラミガキ。

須恵器

番号	遺構名	出土位置	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
12	—	検出	大甕	—	—	—	3%	体部片。外面平行タタキ痕。

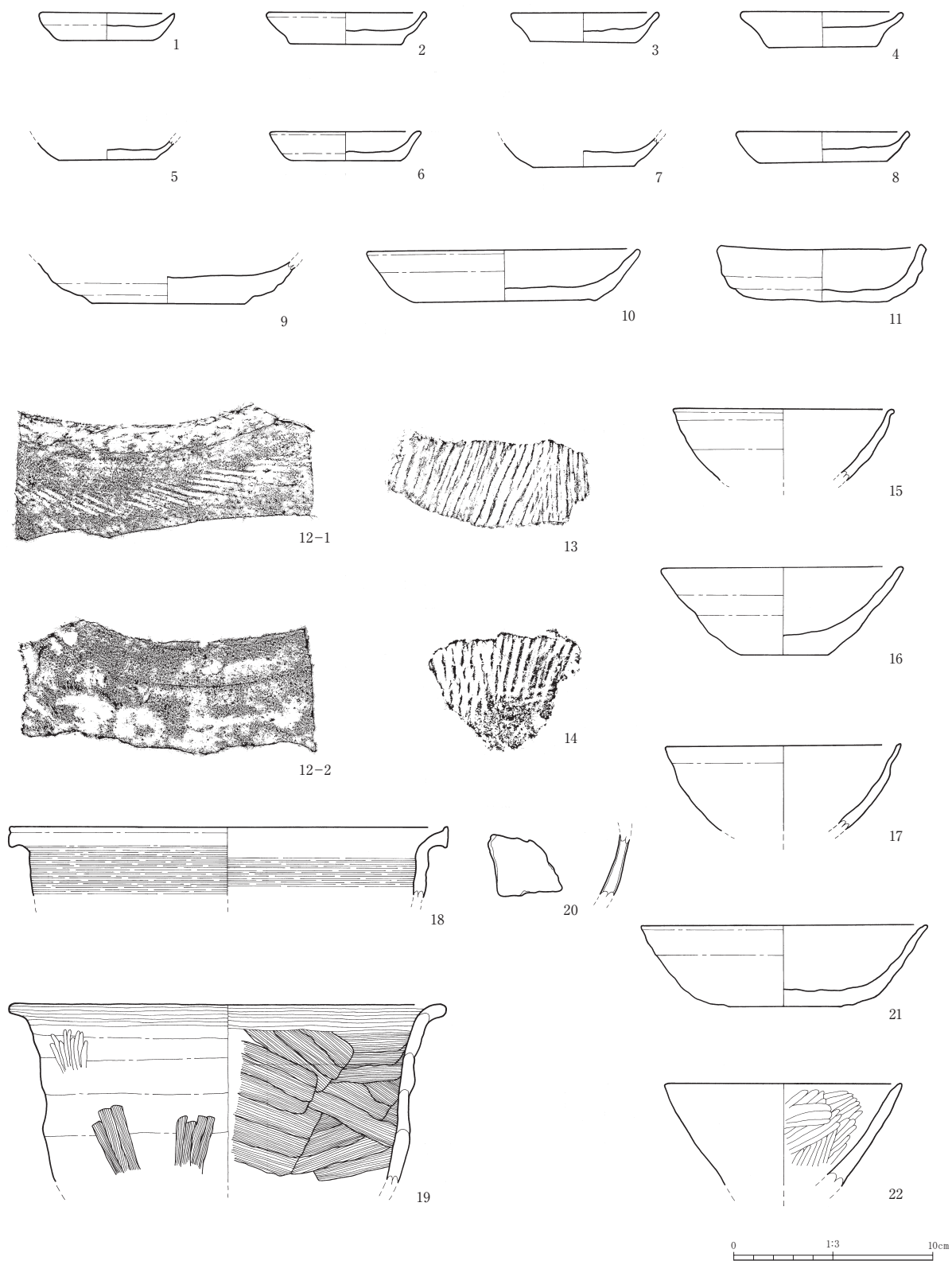
北陸型甕

番号	遺構名	出土位置	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
13	SD-057	C層	甕	—	—	4.4以上	3%	体部片。外面縦状平行タタキ痕。内面横状平行タタキ痕。
14	SD-057	C層	甕	—	—	5.6以上	3%	底部付近。外面縦状平行タタキ痕。内面タタキ痕。

中国産磁器

番号	遺構名	出土位置	成形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
20	—	検出	白磁碗	3.1以上	—	0.7	5%	口～体部。白灰の釉。

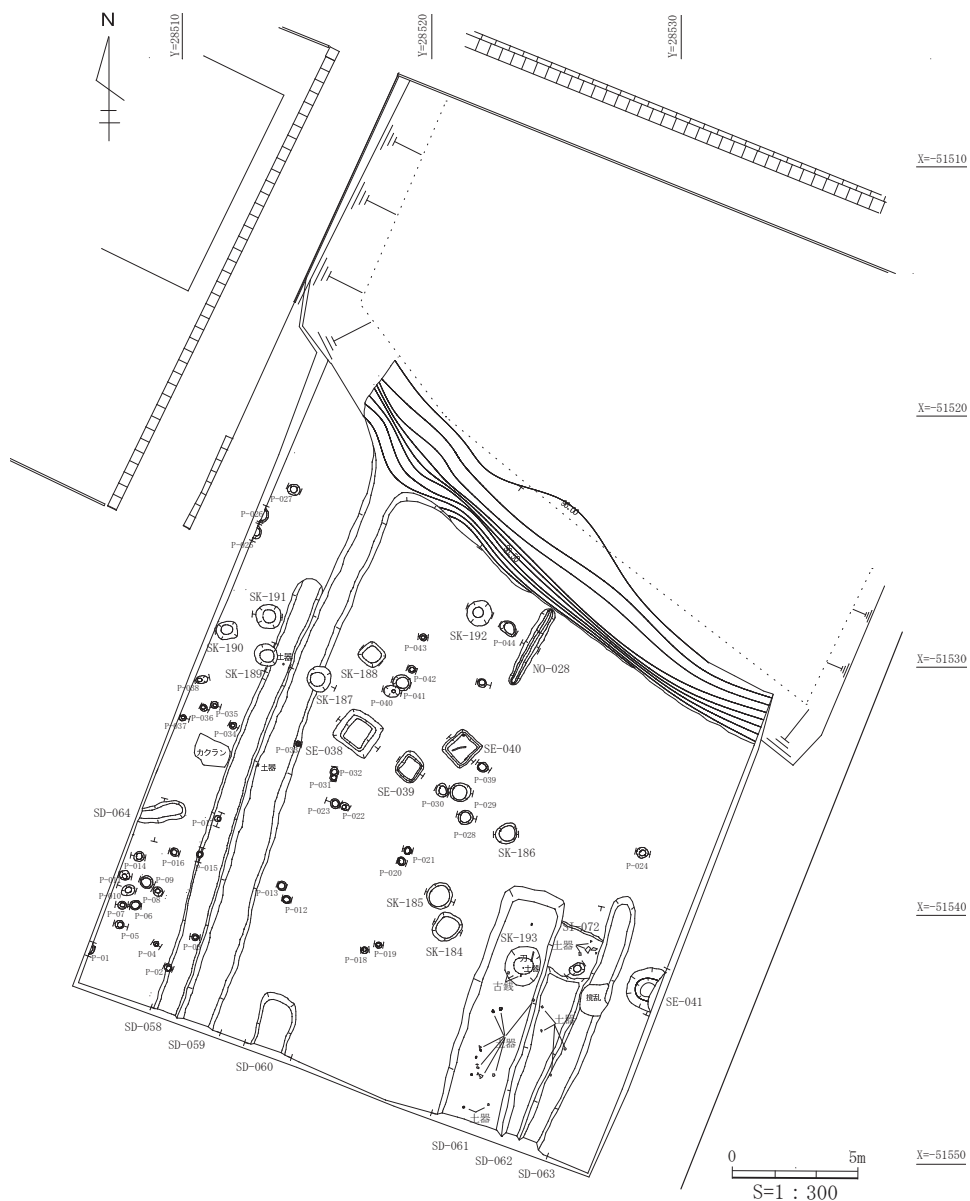
表 5 出土遺物一覧表



第11図 出土遺物① (1 : 3)

## 4 第32次調査の概要

- 位置 学校法人紫波学園 赤石幼稚園の南東約100mの地点で、南北25m、東西22mの範囲を調査した。
- 検出遺構 SI-072 竪穴住居跡1棟、SE-038～SE-041 井戸跡4基、SD-058～SD-064 溝跡7条、SK-184～SK-193 土坑跡10基、NO-028 陥し穴状遺構1基、P-01～P-044 柱穴44口である。尚、遺構検出面は褐色シルト層上面で実施した。
- 出土遺物 かわらけ、土師質土器、あかやき土器坏・甕、須恵器坏・甕、国産陶器、中国産陶磁器、鉄製品、木製品、古銭、その他が出土した。



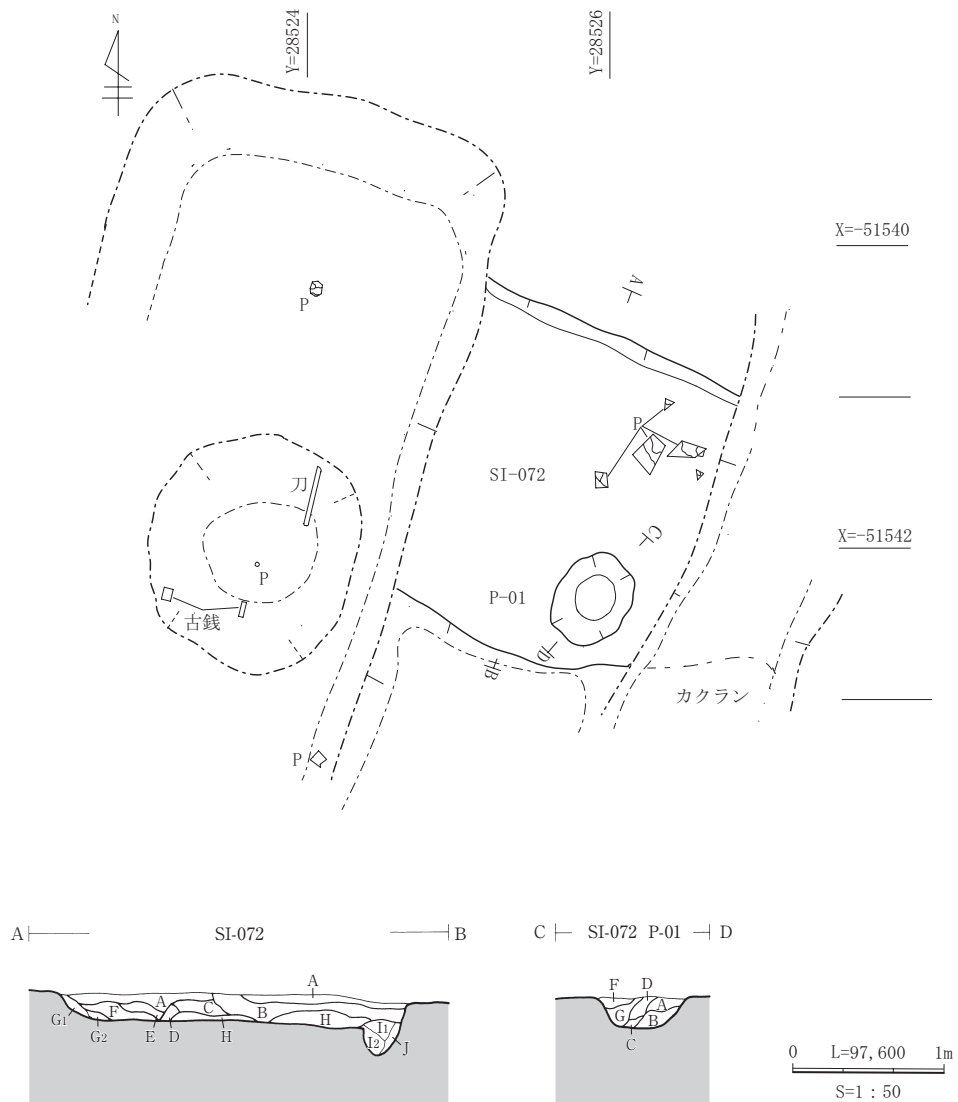
第12図 第32次調査区 全体図 (1:300)



(1) 検出遺構

SI-072 竪穴住居跡 (第 13 図)

- 位置 調査区南東。 平面形 方形。 主軸方向 S21° E。 掘込面 削平。
- 重複関係 SD-061・SD-062・SD-063 に切られる。 検出面 褐色シルト層上層。
- 規模 上端 1.8m 以上～2.0m 以上。 下端 1.8m 以上～1.9m 以上をはかる。
- 埋土 A 層～J 層に大別され、G 層・J 層は 2 層に細分する。 A 層・H 層は黒色土を主体に、B 層・G 層・J 層は黒褐色土を主体に、C 層・I 層はにぶい黄褐色土を主体である。 E 層～D 層・J 層に炭化物を含み、D 層・E 層・I 層に焼土を含む。
- 壁の状況 検出面から床面までの深さは 0.16m～0.20m で、壁は外傾して立ち上がる。
- 床の状況 ほぼ平坦。 カマド・燃焼部 不明。
- 柱穴 床面から 1 口検出し、大量の焼土と土器を含む。 規模は、上端 0.70m～0.40m、下端 0.37m～0.30m、深さ 0.18m をはかる。
- 出土遺物 あかやき土器 坏・甕、須恵器坏などが出土。



第 13 図 SI-072 竪穴住居跡・P-01 柱穴 平面図・断面図 (1 : 50)

### SE-038 井戸跡 (第 14 図)

位 置 調査区中央西側。 平面形 方形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層上面。  
規 模 上端 2.08m ～ 1.56m、下端 1.20m ～ 0.85m、深さ 1.69m をはかる。  
埋 土 A 層～N 層に大別し、A 層は 2 層に、B 層は 3 層に、F 層は 2 層に細分する。A 層～G 層・J 層～M 層は黒色土～暗褐色土を主体、H 層・I 層・N 層は、灰黄褐色土～明黄褐色土を主体とする。B 層・G 層・J 層 K 層は少礫を含む。  
壁の状況 ほぼ直壁に立ち上がる。 底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 かわらけ。

### SE-039 井戸跡 (第 14 図)

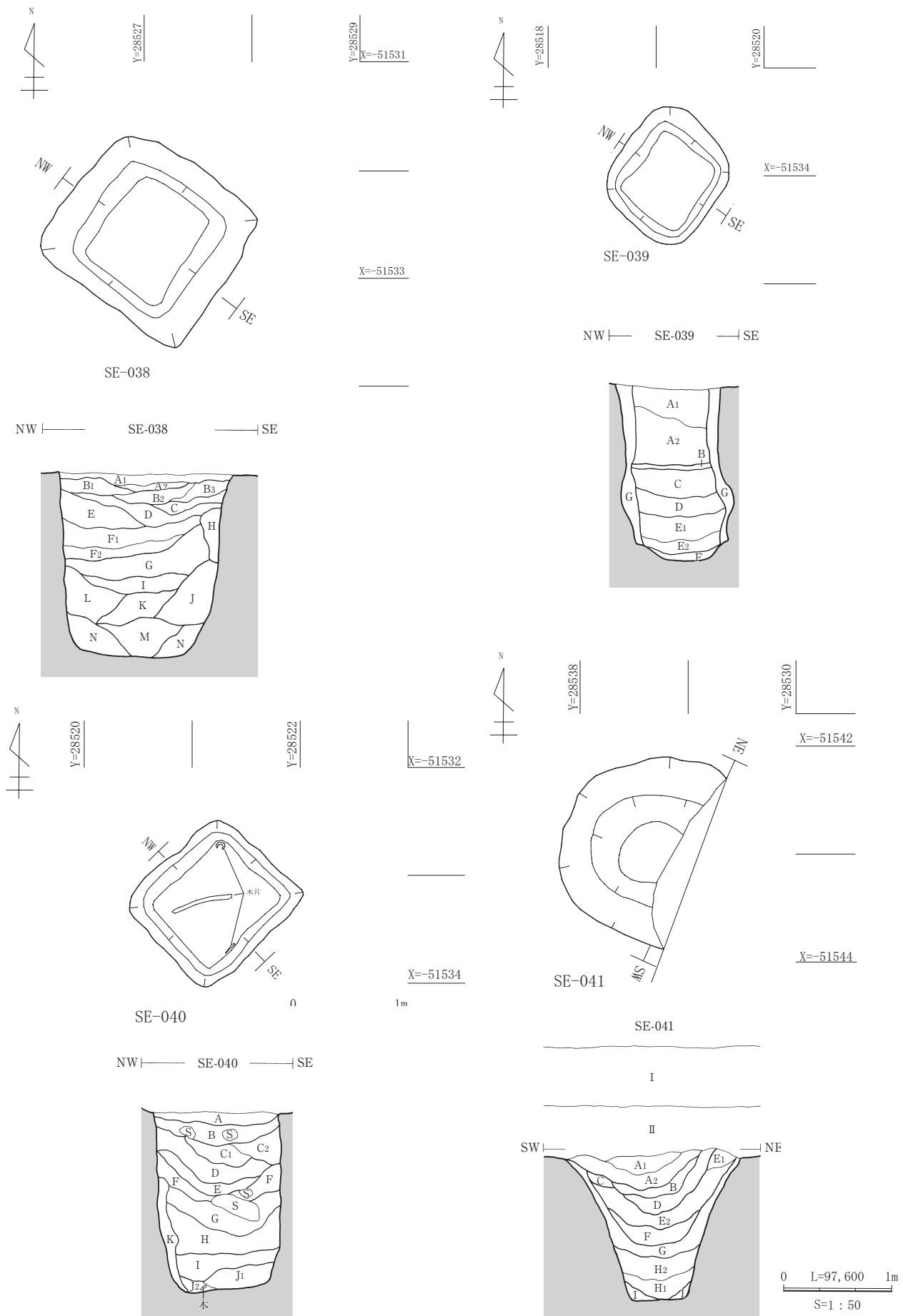
位 置 調査区中央西側。 平面形 隅丸方形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層上面。  
規 模 上端 1.64m ～ 1.20m、下端 1.20m ～ 0.79m、深さ 1.60m をはかる。  
埋 土 A 層～G 層に大別され、A 層・E 層は 2 層に細分する。B 層～D 層・G 層は黒色土～暗褐色土を主体、A 層・E 層・F 層は灰黄褐色土～明黄褐色土を主体とする。A 層・F 層・G 層は礫を含み、B 層～G 層は水分を含む。  
壁の状況 ほぼ直壁に立ち上がる。 底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 かわらけ。

### SE-040 井戸跡 (第 14 図)

位 置 調査区中央。 平面形 方形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層上面。  
規 模 上端 1.30m ～ 0.52m、下端 0.95m ～ 0.63m、深さ 1.66m をはかる。  
埋 土 A 層～K 層に大別され、C 層・J 層は 2 層に細分する。A 層～H 層は黒色土～褐色土を主体、I 層～K 層は灰黄褐色土～にぶい黄褐色土を主体とする。B 層・D 層は礫を含み、I 層・J 層は水分を多く含む。  
壁の状況 ほぼ直壁に立ち上がる。 底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 かわらけ、木製品 (井戸枠、隅柱)。

### SE-041 井戸跡 (第 14 図)

位 置 調査区東側壁。 平面形 円形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層上面。  
規 模 上端 1.80m ～ 1.22m、下端 0.57m ～ 0.47m、深さ 1.60m をはかる。  
埋 土 A 層～I 層に大別され、A 層・E 層・H 層は 2 層に細分する。A 層・C 層～F 層は黒色土～褐色土を主体、B 層・G 層～I 層は黄褐色土～明黄褐色土を主体とする。H 層・I 層は礫を含む。  
壁の状況 直壁に外傾して立ち上がる。 底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 なし。



第 14 図 SE-038 ~ SE-041 井戸跡 平面図・断面図 (1 : 50)

### SD-058 溝跡 (第 15 図)

位 置 調査区南側。 平面形 L字形。 重複関係 SD-059 に切られる。  
掘込面 削平。 検出面 黄褐色シルト層。  
規 模 長さは南 - 北に 17.9m 以上、幅は上端 0.93m 以上・下端 0.87m 以上をはかる。  
埋 土 A 層・B 層に大別する。A 層・B 層は黒褐色土～暗褐色土を主体する。  
壁の状況 検出面から床面までの深は 0.24m ～ 0.19m で、壁はゆるやかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 かわらけ。

### SD-059 溝跡 (第 15 図)

位 置 調査区南側。 平面形 L字形。 重複関係 SD-058 を切る。  
掘込面 削平。 検出面 黄褐色シルト層。  
規 模 長さは南北に 22.8m 以上、幅は上端 1.73m ・下端 1.28m をはかる。  
埋 土 A 層～G 層に大別する。A 層・E 層・F 層は 2 層に細分する。A 層～E 層は黒褐色土～暗褐色土を主体に、F 層・G 層はにぶい黄褐色土～褐色土を主体。  
壁の状況 検出面から床面までの深は 0.52m ～ 0.47m で、壁は外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 かわらけ。

### SD-060 溝跡 (第 15 図)

位 置 調査区南側。 平面形 L字形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 黄褐色シルト層。  
規 模 長さは南北に 2.18m 以上、幅は上端 1.48m ・下端 1.16m をはかる。  
埋 土 A 層～B 層に大別する。A 層・B 層は黒褐色土を主体。  
壁の状況 検出面から床面までの深は 0.28m ～ 0.21m で、壁は外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 かわらけ。

### SD-061 溝跡 (第 16 図)

位 置 調査区南側。 平面形 L字形。 重複関係 SD-062 を切る。SK-193 に切られる。  
掘込面 削平。 検出面 黄褐色シルト層。  
規 模 長さは南北に 9.52m 以上、幅は上端 2.75m ・下端 2.25m をはかる。  
埋 土 A 層～I 層に大別する。A 層・F 層は 2 層に細分する。A 層・B 層、D 層・E 層、G 層～I 層は黒色土～暗褐色土を主体に、F 層はにぶい黄褐色土を主体。  
壁の状況 検出面から床面までの深は 0.67m ～ 0.58m で、壁は外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 かわらけ、国産陶器、中国産陶磁器、土師質土器。

### SD-062 溝跡 (第 16 図)

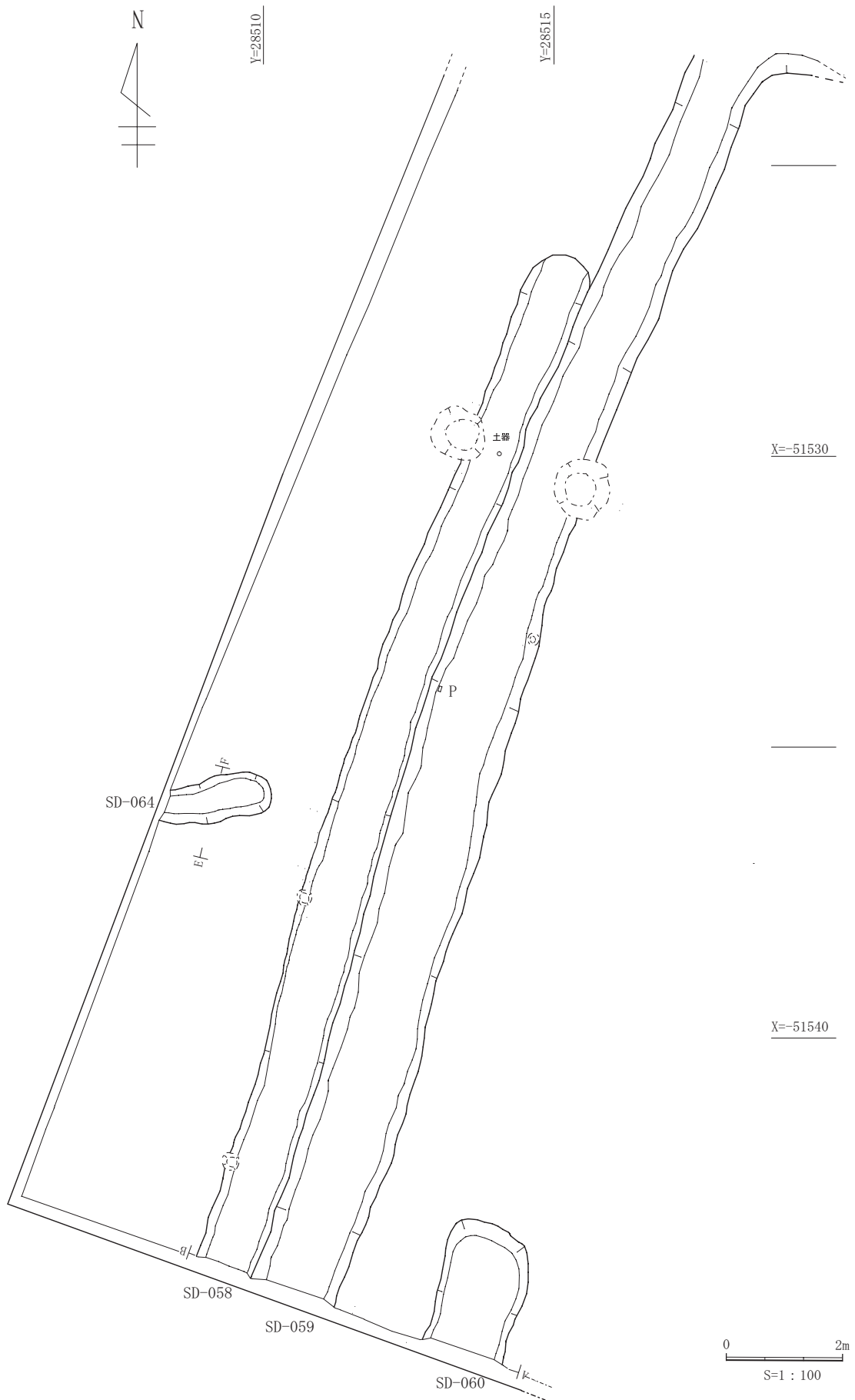
位 置 調査区南側。 平面形 L 字形。  
重複関係 SD-061・SD-063 に切られる。SI-072 を切る。  
掘込面 削平。 検出面 黄褐色シルト層。  
規 模 長さは南北に 6.65m 以上、幅は上端 0.85m 以上・下端 0.59m をはかる。  
埋 土 A 層～E 層に大別する。A 層は 2 層に細分する。A 層～C 層は黒色土～暗褐色土を主体に、  
D 層・E 層はにぶい黄褐色土～明黄褐色土を主体。  
壁の状況 検出面から床面までの深は 0.32m ～ 0.29m で、壁はゆるやかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 かわらけ、国産陶器。

### SD-063 溝跡 (第 16 図)

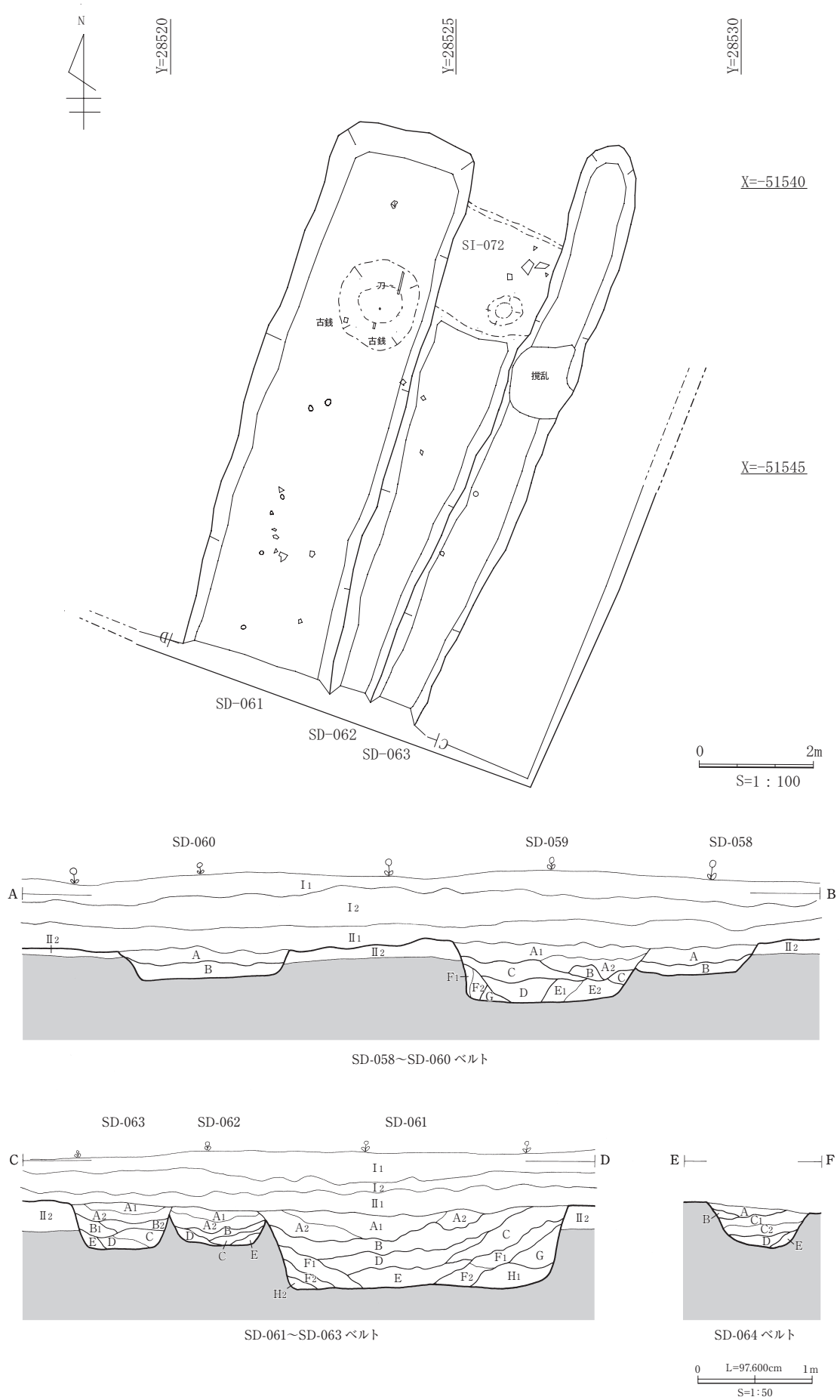
位 置 調査区南側。 平面形 L 字形。 重複関係 SD-062、SI-072 を切る。  
掘込面 削平。 検出面 黄褐色シルト層。  
規 模 長さは南北に 10.38m 以上、幅は上端 0.89m 以上・下端 0.58m 以上をはかる。  
埋 土 A 層～F 層に大別する。B 層は 2 層に細分する。A 層～C 層は黒色土～暗褐色土を主体に、  
D 層・E 層はにぶい黄褐色土～明黄褐色土を主体。  
壁の状況 検出面から床面までの深は 0.40m ～ 0.35m で、壁はゆるやかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 かわらけ。

### SD-064 溝跡 (第 16 図)

位 置 調査区南側。 平面形 L 字形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 黄褐色シルト層。  
規 模 長さは東西に 1.81m 以上、幅は上端 0.98m 以上・下端 0.54m 以上をはかる。  
埋 土 A 層～F 層に大別する。C 層は 2 層に細分する。A 層～D 層は黒色土～褐色土を主体に、  
E 層は明黄褐色土を主体。  
壁の状況 検出面から床面までの深は 0.35m ～ 0.28m で、壁はゆるやかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。  
出土遺物 なし。



第15図 SD-058 ~ SD-060・SD-064 溝跡 全体図 (1 : 100)



第16図 SD-061～SD-063 溝跡 平面図 (1:100)、SD-058～SD-064 溝跡 断面図 (1:50)

### SK-184 土坑跡 (第 17 図)

位 置 調査区南側。 平面形 楕円形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 褐色土シルト層上面。  
規 模 上端 1.27m ~ 1.03m、下端 0.97m ~ 0.80m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層・B 層に大別する。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.17m をはかり、緩やかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。

### SK-185 土坑跡 (第 17 図)

位 置 調査区南側。 平面形 不整形円形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 褐色土シルト層上面。  
規 模 上端 1.08m ~ 1.03m、下端 0.92m ~ 0.80m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層・B 層に大別され、A 層は 2 層に細分する。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.28m をはかり、緩やかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。

### SK-186 土坑跡 (第 17 図)

位 置 調査区中央。 平面形 楕円形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 褐色土シルト層上面。  
規 模 上端 0.98m ~ 0.76m、下端 0.73m ~ 0.57m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層・B 層に大別され、A 層は 2 層に細分する。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.24m をはかり、緩やかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。

### SK-187 土坑跡 (第 17 図)

位 置 調査区西側。 平面形 不整形円形。 重複関係 SD-059 を切る。  
掘込面 削平。 検出面 褐色土シルト層上面。  
規 模 上端 1.03m ~ 0.90m、下端 0.60m ~ 0.55m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層・B 層に大別する。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.16m をはかり、緩やかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。

### SK-188 土坑跡 (第 17 図)

位 置 調査区北側。 平面形 隅丸方形。 重複関係 なし。  
掘込面 削平。 検出面 褐色土シルト層上面。  
規 模 上端 0.90m ~ 0.75m、下端 0.50m ~ 0.40m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層～C 層に大別され、B 層は 2 層に細分する。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.33m をはかり、ほぼ垂直に立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。



### SK-189 土坑跡 (第 17 図)

位 置 調査区西側。 平 面 形 円形。 重複関係 SD-058 を切る。  
掘 込 面 削平。 検 出 面 褐色シルト層上面。  
規 模 上端 1.08m ~ 1.00m、下端 0.58m ~ 0.54m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層 ~ G 層に大別され、E 層は 2 層に細分する。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.83m をはかり、ほぼ垂直に立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 土師質土器。

### SK-190 土坑跡 (第 18 図)

位 置 調査区西側。 平 面 形 楕円形。 重複関係 なし。  
掘 込 面 削平。 検 出 面 褐色シルト層上面。  
規 模 上端 0.85m ~ 0.78m、下端 0.45m ~ 0.37m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層 ~ D 層に大別され、B 層は 2 層に細分する。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.51m をはかり、緩やかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。

### SK-191 土坑跡 (第 18 図)

位 置 調査区西側。 平 面 形 円形。 重複関係 なし。  
掘 込 面 削平。 検 出 面 褐色シルト層上面。  
規 模 上端 1.10m ~ 1.02m、下端 0.45m ~ 0.42m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層 ~ E 層に大別する。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.85m をはかり、緩やかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。

### SK-192 土坑跡 (第 18 図)

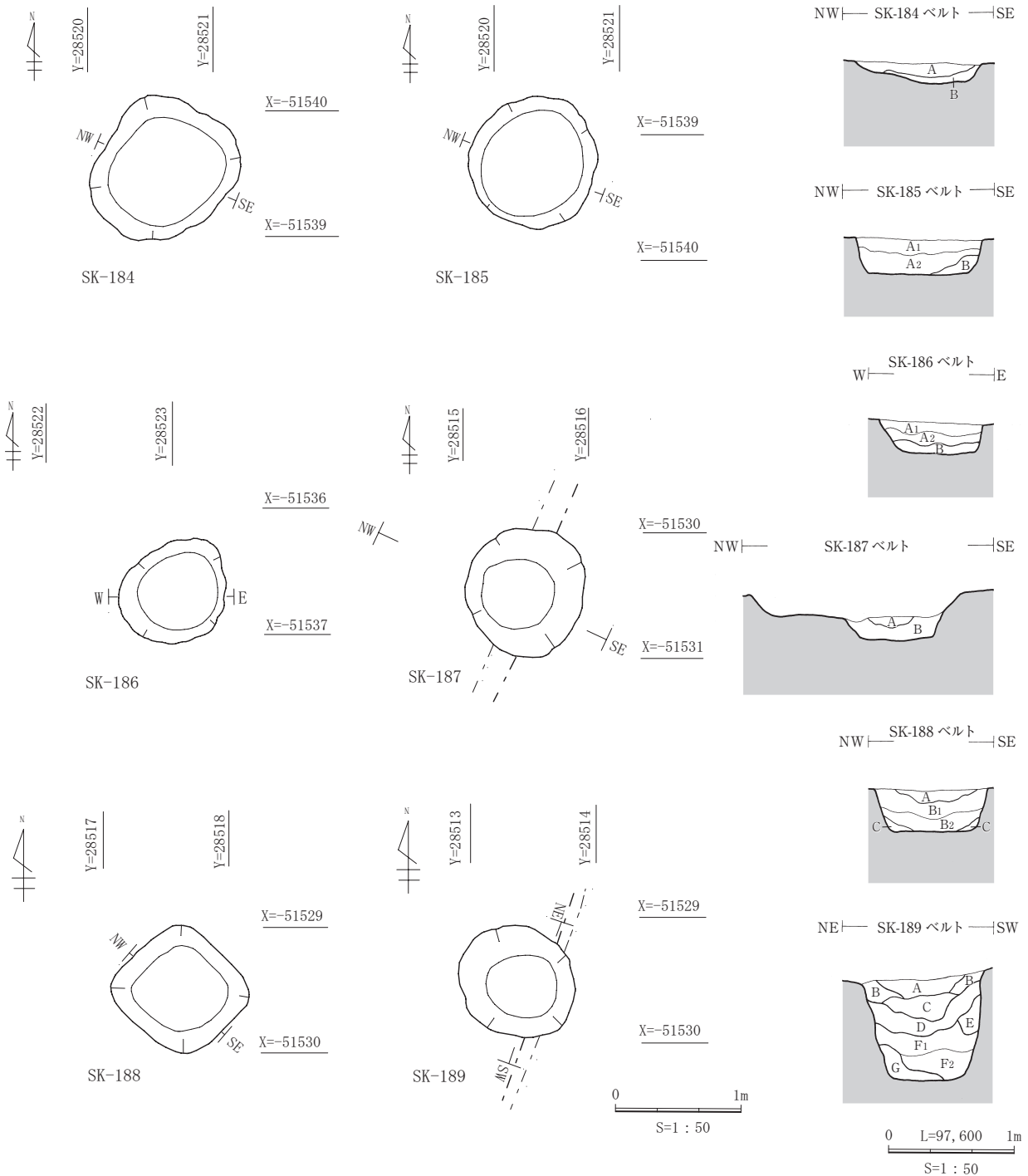
位 置 調査区北側。 平 面 形 円形。 重複関係 なし。  
掘 込 面 削平。 検 出 面 褐色シルト層上面。  
規 模 上端 1.09m ~ 1.04m、下端 0.44m ~ 0.42m をはかる。  
埋 土 自然堆積。A 層 ~ C 層に大別する。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.26m をはかり、緩やかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。

### SK-193 土坑跡 (第 18 図)

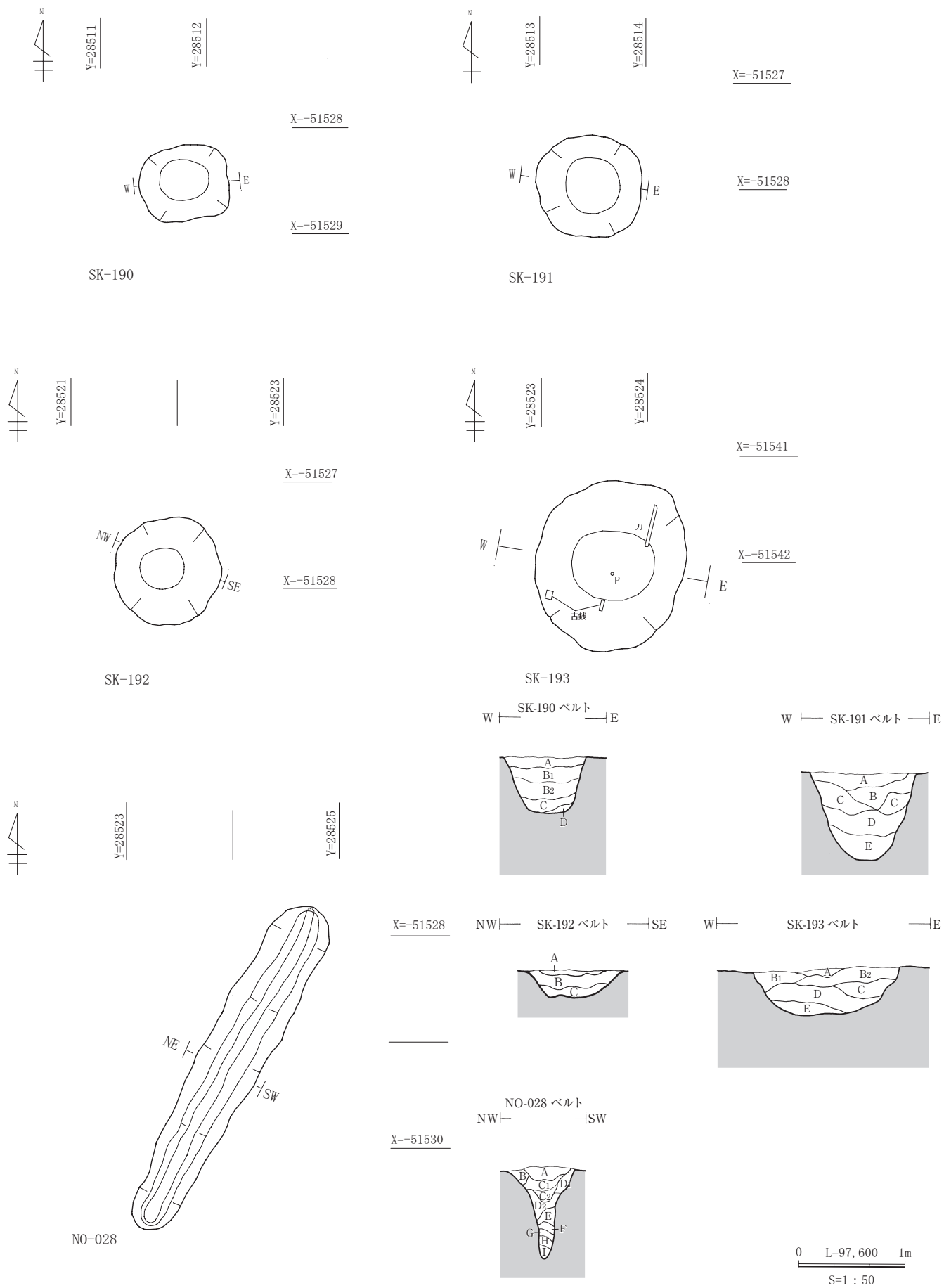
位 置 調査区東側。 平 面 形 楕円形。 重複関係 SD-061 を切る。  
掘 込 面 削平。 検 出 面 褐色シルト層上面。  
規 模 上端 1.65m ~ 1.42m、下端 0.80m ~ 0.66m をはかる。  
埋 土 人為堆積。A 層 ~ E 層に大別され、B 層は 2 層に細分する。  
壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.43m をはかり、緩やかに外傾して立ち上がる。  
底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 小刀、古銭、釘、鏃。

NO-028 陥し穴状遺構 (第 18 図)

位置 調査区東側。 平面形 長楕円形。 重複関係 なし。  
 掘込面 削平。 検出面 褐色シルト層上面。  
 規模 長軸 3.47m、短軸 0.63m、深さ 0.87m をはかる。  
 埋土 自然堆積。A 層～I 層に大別する。A 層は 3 層、C 層・D 層は 2 層に細分する。  
 壁の状況 検出面から底面までの深さは 0.87m をはかり、下半はほぼ垂直で、上半は外構して立ち上がる。  
 底面の状況 ほぼ平坦。 出土遺物 なし。



第 17 図 SK-184 ～ SK-189 土坑跡 平面図・断面図 (1 : 50)



第 18 図 SK-190 ~ SK-193・NO-028 土坑跡・陥し穴状遺構 平面図・断面図 (1 : 50)

## SE-038

A1 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
A2 層	暗褐色土を主体に、にぶい明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B1 層	黒褐色土を主体に、明黄橙色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2 層	黒褐色土を主体に、明黄色土を粒状～塊状に少礫を含み締まりは弱。
B3 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは弱。
D 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
E 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F1 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F2 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
G 層	黒色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に少礫を含み締まりは中。
H 層	明黄褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
I 層	灰黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
J 層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に少礫を含み締まりは強。
K 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に少礫を含み締まりは中。
L 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
M 層	暗褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
N 層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に礫を多く、木片を含み締まりは弱。

## SE-039

A1 層	明黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に少礫を多く含み締まりは中。
A2 層	明黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に少礫を含む。
B 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に水分を含み締まりは弱。
C 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に水分を含み締まりは弱。
D 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に水分を含み締まりは弱。
E1 層	灰黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に水分を含む。グライ化。
E2 層	灰黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に水分を含む。グライ化。
F 層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に水分と礫を多く含み締まりは弱。
G 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に水分と少礫を含み締まりは弱。

## SE-040

A 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に礫を多く含み締まりは中。
C1 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
C2 層	黒色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に少礫を含み締まりは中。
E 層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G 層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
H 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
I 層	灰黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に水分を含み粘土質。
J1 層	褐灰色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に水分を含み粘土質。
J2 層	褐灰色土を主体に、灰黄褐色土を粒状～塊状に水分を含み粘土質。
K 層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に水分を含み締まりは弱。

## SE-041

A1 層	暗褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
A2 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B 層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
C 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に含み締まりは強。
E1 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に含み締まりは強。
E2 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に含み締まりは強。
F 層	褐色土を主体に、黒褐色土を粒状～塊状に含み締まりは強。
G 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
H1 層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状と水分を少礫を多く含み締まりは弱。
H2 層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に礫と水分を含み締まりは弱。
I 層	明黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に少礫と水分を含み締まりは弱。

表 6 SE-038～SE-041 埋土注記一覧表

## SD-058

A 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
B 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。

## SD-059

A1 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状にカーボン・土器を含み絞まりは中。
A2 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に土器を含み絞まりは中で
B 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に土器を含み絞まりは中。
C 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
D 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
E1 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
E2 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
F1 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを少量含み絞まりは中。
F2 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み絞まりは中。
G 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを少量含み絞まりは中。

## SD-060

A 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に絞まりは中。
B 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状にカーボン・土器を含み絞まりは中。

## SD-061

A1 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み絞まりは中。
A2 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを少量含み絞まりは中。
B 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状にカーボンを少量含み絞まりは中。
C 層	明黄褐色土主体に、暗褐色土を粉状～粒状に絞まりは中。
D 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に絞まりは中。
E 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状にカーボン・土器を含み絞まりは中。
F1 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
F2 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に土器を含み絞まりは中。
G 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に絞まりは中。
H 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状にカーボン・土器を含み絞まりは中。
I 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状にカーボン・土器を含み絞まりは中。

## SD-062

A1 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に絞まりは中。
A2 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
B 層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
C 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に土器を含み絞まりは中。
D 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に土器を含み絞まりは中。
E 層	明黄褐色土主体に、暗褐色土を粉状～粒状に絞まりは中。

## SD-063

A1 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に絞まりは中。
A2 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に絞まりは中。
B1 層	黒色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
B2 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
C 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に土器を含み絞まりは中。
D 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に土器を含み絞まりは中。
E 層	明黄褐色土主体に、暗褐色土を粉状～粒状にカーボン・土器を含み絞まりは中。

## SD-064

A 層	黒色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に絞まりは中。
B 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
C1 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
C2 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に絞まりは中。
D 層	褐色土を主体に、粒状～塊状に絞まりは中。
E 層	明黄褐色土主体に、褐色土を粉状～粒状に絞まりは中。

表 7 SD-058 ～ SD-064 埋土注記一覧表



## SK-184

A 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SK-185

A1 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
A2 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

## SK-186

A1 層	黒色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
A2 層	黒色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SK-187

A 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SK-188

A 層	黒色土を主体に、暗褐色土を粉状～塊状に締まりは中。
B 1 層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	明黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SK-189

A 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に炭化物を含み締まりは中。
C 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に炭化物を含み締まりは中。
D 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは弱。
E 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F1 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F2 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
G 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

## SK-190

A 層	黒色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に炭化物を含み締まりは弱。
B1 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
B2 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粒状～塊状に締まりは強。

## SK-191

A 層	黒色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に締まりは弱。
B 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に炭化物を含み締まりは弱。
D 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に少礫を含み締まりは強。
E 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SK-192

A 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B1 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

## SK-193

A 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは弱。
B1 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B2 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
C 層	黒色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に炭化物を含み締まりは中。
D 層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に刀・鎌・古銭・カーボンを含む。
E 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に釘を含み締まりは中。

表 8 SK-184～SK-193 埋土注記一覧



NO-028

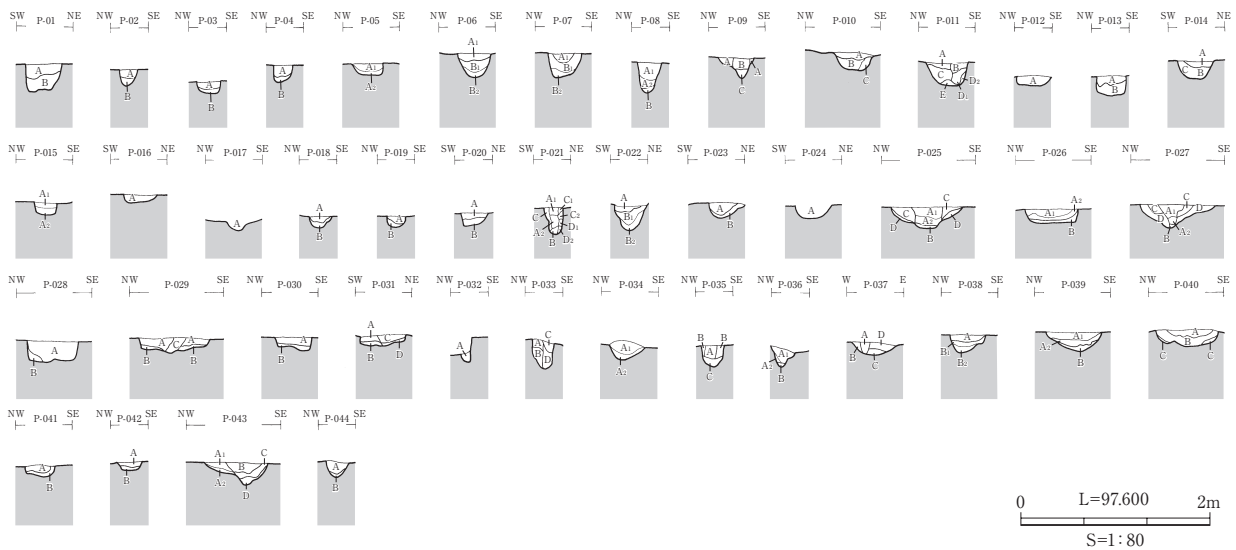
A 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B 層	明黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
C1 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
C2 層	褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
D1 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
D2 層	黒褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
E 層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
F 層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に砂質を含み締まりは弱。
G 層	褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは弱。
H 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～塊状に締まりは中。
I 層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表 9 NO-028 陥し穴 埋土注記一覧表

P-01 ~ P-044 柱穴

柱穴は 44 口検出した。その内、柱痕跡が確認出来たのは P-021・P-024・P-027 である。その他の柱穴に関しては、明確な柱痕跡を残すものはない。埋土は、暗褐色土・黒褐色土を主体になるものが多い。各柱穴の深さは次のとおりである。

- P-01 - 0.26m ・ ・ P-02 - 0.18m ・ ・ P-03 - 0.12m ・ ・ P-04 - 0.18m ・ ・ P-05 - 0.12m ・ ・
- P-06 - 0.27m ・ ・ P-07 - 0.24m ・ ・ P-08 - 0.36m ・ ・ P-09 - 0.22m ・ ・ P-10 - 0.18m ・ ・
- P-11 - 0.24m ・ ・ P-12 - 0.12m ・ ・ P-13 - 0.22m ・ ・ P-14 - 0.20m ・ ・ P-15 - 0.12m ・ ・
- P-16 - 0.06m ・ ・ P-17 - 0.10m ・ ・ P-18 - 0.15m ・ ・ P-19 - 0.15m ・ ・ P-20 - 0.18m ・ ・
- P-21 - 0.32m ・ ・ P-22 - 0.24m ・ ・ P-23 - 0.16m ・ ・ P-24 - 0.18m ・ ・ P-25 - 0.24m ・ ・
- P-26 - 0.16m ・ ・ P-27 - 0.24m ・ ・ P-28 - 0.22m ・ ・ P-29 - 0.18m ・ ・ P-30 - 0.12m ・ ・
- P-31 - 0.15m ・ ・ P-32 - 0.28m ・ ・ P-33 - 0.32m ・ ・ P-34 - 0.22m ・ ・ P-35 - 0.22m ・ ・
- P-36 - 0.23m ・ ・ P-37 - 0.18m ・ ・ P-38 - 0.20m ・ ・ P-39 - 0.18m ・ ・ P-40 - 0.16m ・ ・
- P-41 - 0.16m ・ ・ P-42 - 0.13m ・ ・ P-43 - 0.24m ・ ・ P-44 - 0.24m。



第 19 図 P-01 ~ P-044 柱穴 断面図 (1 : 100)

## (2) 出土遺物

今回の調査で、かわらけコンテナ6箱、土師質土器・須恵器・あかやき土器コンテナ2箱、国産陶器、中国産陶磁器、鉄製品・木製品・その他コンテナ3箱が出土した。その内、実測可能な出土遺物83点を図化し掲載した。

### 1) かわらけ (第20・21図)

SD-063 溝跡から1点。16はロクロ成形で回転糸切再調整である。口径は9.2cmをはかる。SD-059 溝跡から4点。13～15・44はロクロ成形で回転糸切無調整である。口径は8.5cm～15.0cmをはかる。SD-060 溝跡から4点。8～10・12はロクロ成形で、8・9は回転糸切無調整で、10・12は回転糸切再調整を施す。口径は8.5cm～9.2cmをはかる。SD-061 溝跡から11点。3～6・25・26・35・36はロクロ成形で、3・4・25・26・35・36は回転糸切無調整で、5・6は回転糸切再調整を施す。口径は7.8cm～13.5cmをはかる。29・32・33は手づくねで、口径は8.2cm～10.0cmをはかる。SD-062 溝跡から3点。11はロクロ成形で回転糸切無調整である。口径は8.8cmをはかる。28・41は手づくねで、口径は7.3cm～14.7cmをはかる。SD-063 溝跡から3点。7・24・38ロクロ成形で7は回転糸切無調整で、24は回転糸切再調整を施す。口径は8.4cm～8.8cmをはかる。38は回転糸切り再調整口径は10.0cmをはかる。SE-038 井戸跡から3点。18はロクロ成形で回転糸切無調整である。口径は9.2cmをはかる。30・37は手づくねで、口径は9.3cm～14.0cmをはかる。SE-040 井戸跡から1点。27は手づくねで口径は7.6cmをはかる。大溝法面から1点。20はロクロ成形で回転糸切無調整である。口径は8.8cmをはかる。検出面から6点。1・2・21～23・45はロクロ成形で1・2・23・45は回転糸切無調整で、21・22は回転糸切再調整を施す。口径は8.4cm～15.2cmをはかる。

### 2) 土師質土器 (第20・21図)

SD-061 溝跡から1点。40は大型坏で口径は13.2cmをはかる。検出面から1点。34は大型坏で口径は11.0cmをはかる。

### 3) あかやき土器 (第21図)

SI-072 竪穴状住居跡から4点。42・46・47は坏で回転糸切再調整を施す。口径は13.2cm～15.6cmをはかる。48は甕で口縁ヨコナデ、内外面ヘラナデ、外面ヘラケズリを施す。

### 4) 須恵器 (第21図)

SI-072 竪穴状住居跡から1点。43は坏で回転糸切無調整である。口径は13.8cmをはかる。大溝法面から1点。49は大甕の体部片で、外面タタキ痕を施す。

### 5) 国産陶器 (第21図)

SD-062 溝跡から1点。39は天目茶碗の口～体部片である。内外面に黒褐色の鉄釉を施す。口径は13.8cmをはかる。SD-062 溝跡から1点。56は常滑壺の体部片である。外面タタキ痕を施す。

### 6) 中国産陶磁器 (第20・21図)

SD-062 溝跡から1点。54は黄釉褐彩四耳壺で、体部片である。SD-061 溝跡から3点。31は白磁碗である。灰白色の釉を施す。52黄釉褐彩四耳壺で体部片である。55は白磁碗である。灰白色の釉を施す。SE-038 井戸跡から1点。50は白磁碗である。灰白色の釉を施す。SE-039 井戸跡から1点。53は褐釉壺の体部片である。

#### 7) 土製品 (第 21 図)

検出面から 1 点。51 は円盤状土製品である。径は 6.7cm をはかる。円の中心に孔が認められる。

#### 8) 木製品・木片 (第 22・23 図)

SE-039 井戸跡から 7 点。57 は井戸の杵材である。長さ 9.8cm をはかる。58～60 は井戸の隅柱である。長さは 9.1cm～19.6cm をはかる。61・62 は木片である。長さは 15.6cm～56.0cm をはかる。63 は井戸の隅柱である。長さは 14.2cm をはかる。

#### 9) 鉄製品 (第 23・24 図)

SK-193 土坑跡から 5 点。64 は刀子である。長さは 13.0cm をはかる。65 は小刀で、反りが無く直線的な形態で、一部に鞘の木片が付着する。長さは 28.9cm をはかる。77～79 は鍬である。77・78 は茎が中空に加工したものである。長さは 10.0cm～10.5cm をはかる。79 は長三角形の鍬身部を有し、その断面は扁平である。長さは 12.8cm をはかる。

#### 10) 石製品 (第 24 図)

SD-061 溝跡から 1 点。83 は滑石製の温石である。長さは 14.2cm・幅 5.7 cm をはかる。温石の中心に孔を開けようとし途中で止めている。未完成品と考えられる。

#### 11) 鉄釘 (第 24 図)

SK-193 土坑跡から 11 点。66～76 は角釘である。長さは 6.5cm～11.7cm をはかる。

#### 12) 古銭 (第 24 図)

SK-193 土坑跡から 3 点。80～82 は永楽通宝である。径は 2.3cm をはかる。80 は熱により溶解しており塊となっている。枚数は 95 枚で、炭化した穀物が付着する。

かわらけ

番号	遺構名	出土位置	成形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	備考
1	—	検出	ロクロ	8.5	2.0	7.0	70%	回転糸切り無調整。
2	—	検出	ロクロ	8.4	2.0	6.4	55%	回転糸切り無調整。
3	SD-061	A2層	ロクロ	8.5	6.0	1.8	60%	回転糸切り無調整。
4	SD-061	B層	ロクロ	8.0	1.9	6.3	97%	回転糸切り無調整。
5	SD-061	B層	ロクロ	8.4	1.6	6.0	90%	回転糸切り再調整。
6	SD-061	E層	ロクロ	7.8	1.8	5.8	75%	回転糸切り再調整。
7	SD-063	A層	ロクロ	8.4	6.0	2.0	85%	回転糸切り再調整。
8	SD-060	A2層	ロクロ	8.4	1.8	6.4	50%	回転糸切り無調整。
9	SD-060	B層	ロクロ	8.4	5.6	2.0	65%	回転糸切り無調整。
10	SD-060	B層	ロクロ	9.1	1.8	6.3	65%	回転糸切り再調整。
11	SD-062	B2層	ロクロ	8.8	1.9	6.0	35%	回転糸切り無調整。
12	SD-060	B2層	ロクロ	9.2	6.8	1.4	75%	回転糸切り再調整。
13	SD-059	B層	ロクロ	8.5	1.7	5.6	65%	回転糸切り無調整。
14	SD-059	B2層	ロクロ	8.7	1.6	5.9	65%	回転糸切り再調整。
15	SD-059	B2層	ロクロ	8.6	2.3	6.0	95%	回転糸切り再調整。
16	SD-063	A層	ロクロ	9.2	1.8	7.0	30%	回転糸切り再調整。スノコ痕。
17	SE-039	A2層	ロクロ	8.6	6.9	2.2	40%	回転糸切り無調整。
18	SE-038	E層	ロクロ	9.2	2.0	6.3	95%	回転糸切り無調整。
19	SE-040	F層	ロクロ	8.4	6.2	2.0	30%	回転糸切り無調整。
20	大溝法面	B層	ロクロ	8.8	1.9	6.8	85%	回転糸切り無調整。
21	—	検出	ロクロ	9.4	2.3	6.4	60%	回転糸切り再調整。
22	—	検出	ロクロ	9.0	2.2	6.0	30%	回転糸切り再調整。
23	—	検出	ロクロ	9.6	2.0	7.6	40%	回転糸切り無調整。
24	SD-063	B層	ロクロ	8.8	1.9	6.8	70%	回転糸切り再調整。
25	SD-061	A層	ロクロ	8.7	1.7	6.0	95%	回転糸切り無調整。
26	SD-061	B層	ロクロ	8.1	2.0	5.4	90%	回転糸切り無調整。
27	SE-040	B層	手づくね	7.6	5.2	1.7	25%	
28	SD-062	A層	手づくね	7.3	5.3	1.6	25%	
29	SD-061	A層	手づくね	8.2	2.2	2.0	100%	
30	SE-038	C層	手づくね	9.3	6.2	1.5	20%	
32	SD-061	B層	手づくね	9.0	1.7	3.4	30%	
33	SD-061	B層	手づくね	10.0	—	—	45%	
35	SD-061	A2層	ロクロ	12.9	6.2	3.8	40%	回転糸切り無調整。
36	SD-061	B層	ロクロ	13.5	3.3	6.9	80%	回転糸切り無調整。
37	SE-038	E層	手づくね	14.0	8.2	3.5	40%	
38	SD-063	A層	ロクロ	10.0	5.0	3.6	25%	回転糸切り再調整。
41	SD-062	C層	手づくね	14.7	8.3	3.9	80%	
44	SD-059	B層	ロクロ	15.0	5.0	4.6	35%	回転糸切り無調整。
45	—	検出	ロクロ	15.2	4.5	7.6	35%	回転糸切り無調整。

土師質土器

番号	遺構名	出土位置	器種名	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	備考
34	—	検出	土師質土器	11.0	3.1	—	45%	大型坏。
40	SD-061	D層	土師質土器	13.2	6.6	4.0	65%	大型坏。

あかやき土器

番号	遺構名	出土位置	器種名	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	備考
42	SI-072	焼土	あかやき坏	13.2	4.2	5.3	90%	回転糸切り再調整。
46	SI-072	焼土	あかやき坏	14.3	5.2	5.1	80%	回転糸切り再調整。
47	SI-072	焼土	あかやき坏	15.6	5.0	7.0	35%	回転糸切り再調整。
48	SI-072	焼土	あかやき甕	19.5	7.0	31.5	40%	内外面ヘラナデ。外面ヘラケズリ。

須恵器

番号	遺構名	出土位置	器種名	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	備考
43	SI-072	焼土	坏	13.8	5.8	5.1	85%	回転糸切り無調整。
49	大溝法面	A層	大甕	—	—	—	5%	外面平行タタキ痕。

表10 出土遺物一覧表①

### 国産陶器

番号	遺構名	出土位置	器種名	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	備考
39	SD-062	B層	天目茶碗	10.6	—	4.1以上	3%	古瀬戸 大窯1小期。
56	SD-062	A層	常滑壺	—	—	3.8以上	3%	外面タタキ痕

### 中国産陶磁器

番号	遺構名	出土位置	器種名	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	備考
31	SD-061	C層	白磁碗	—	3.0	1.5以上	5%	白灰色の釉。
50	SE-038	B2層	白磁碗	—	6.4	1.1以上	3%	白灰色の釉。
52	SD-061	B層	黄釉褐彩四耳壺	—	—	2.4以上	3%	
53	SE-039	B2層	褐釉壺	—	—	3.6以上	3%	
54	SD-062	B2層	黄釉褐彩四耳壺	—	—	5.6以上	3%	
55	SD-061	B層	白磁碗	—	—	4.7以上	4%	白灰色の釉。

### 土製品

番号	遺構名	出土位置	器種名	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	残存率	備考
51	—	検出	円盤状	5.9	6.7	1.1	3%	中心に孔が認められる。

### 木製品

番号	遺構名	出土位置	器種名	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	残存率	備考
57	SE-039	最下層	井戸 枠材	9.8	4.0	0.9	—	
58	SE-039	最下層	井戸 隅柱	9.1	9.7	10.1	—	南東隅。
59	SE-039	最下層	井戸 隅柱	9.4	10.6	3.0	—	
60	SE-039	最下層	井戸 隅柱	19.6	8.4	3.9	—	南西隅。
61	SE-039	最下層	木片	16.5	3.2	1.4	—	
62	SE-039	最下層	木片	56.0	4.1	1.4	—	
63	SE-039	最下層	井戸 隅柱	14.2	13.0	4.3	—	北西隅。

### 鉄製品

番号	遺構名	出土位置	器種名	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	残存率	備考
64	SK-193	A層	刀子	13.0	1.6	0.5	100%	
65	SK-193	B層	小刀	28.9	3.6	0.5	100%	一部鞘(木片)付着。
77	SK-193	B層	鉄鎌	10.5	1.0	0.6	50%	茎が中空。
78	SK-193	B層	鉄鎌	10.0	0.8	0.4	50%	茎が中空。
79	SK-193	A層	鉄鎌	12.6	1.2	1.1	100%	長三角形の鎌身部。

### 石製品

番号	遺構名	出土位置	器種名	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	残存率	備考
83	SD-061	A層	温石	6.4	5.7	1.4	95%	未完成品。

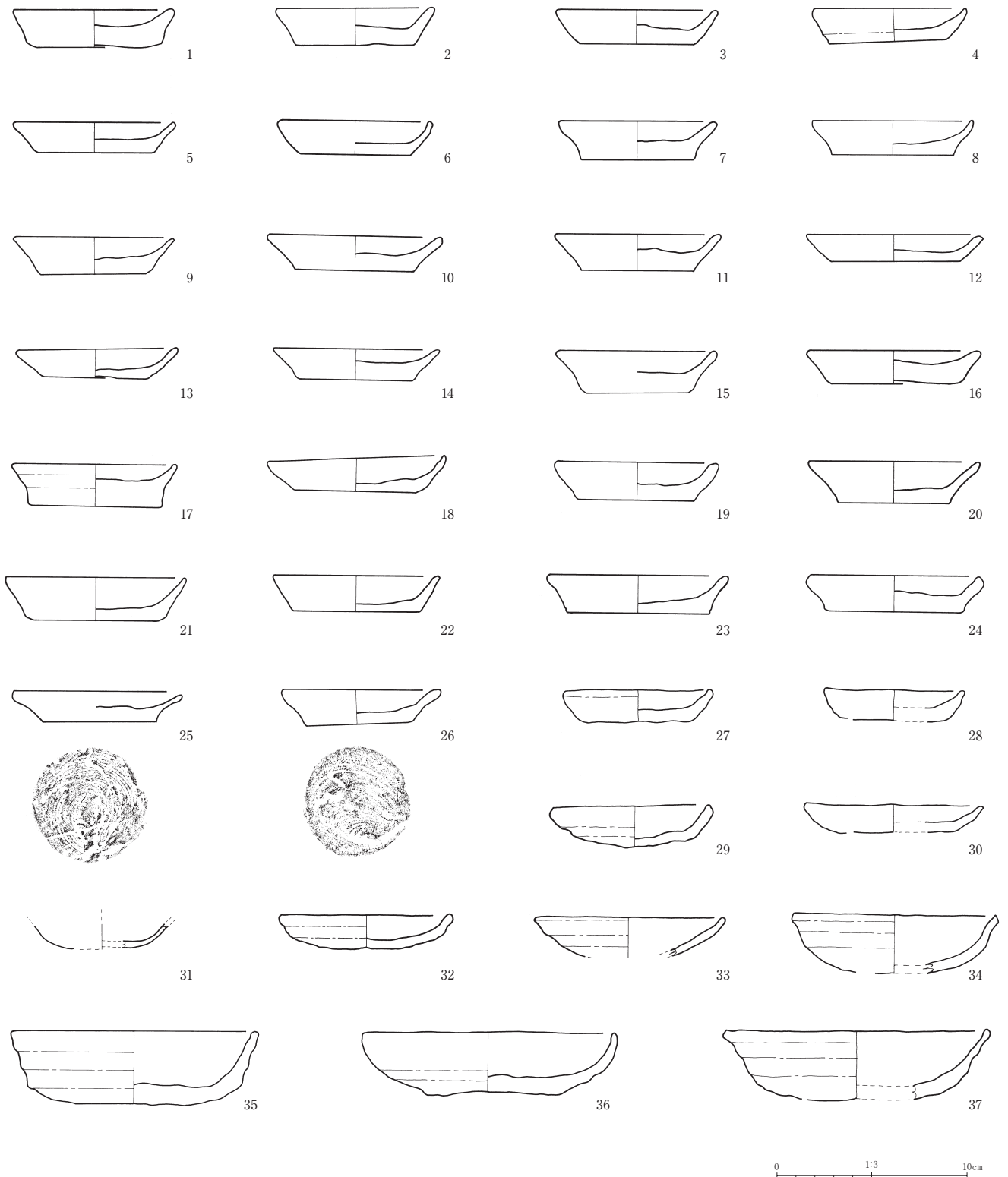
### 釘

番号	遺構名	出土位置	成形	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	残存率	備考
66	SK-193	B層	角釘	6.5	1.0	0.9	100%	
67	SK-193	B層	角釘	6.6	0.9	1.1	97%	先端欠損。
68	SK-193	A層	角釘	7.5	0.4	0.5	95%	先端欠損。
69	SK-193	A層	角釘	7.6以上	0.6	0.6	98%	頭・先端欠損。
70	SK-193	A層	角釘	8.8	0.6	0.7	100%	
71	SK-193	A層	角釘	9.1	0.6	0.4	98%	先端欠損。
72	SK-193	B層	角釘	9.0	1.0	0.8	95%	先端欠損。
73	SK-193	A層	角釘	9.5	0.9	1.2	90%	先端欠損。
74	SK-193	B層	角釘	10.9	0.9	0.8	90%	先端欠損。
75	SK-193	B層	角釘	10.0	0.5	0.6	98%	先端欠損。
76	SK-193	A層	角釘	11.7	1.0	0.9	95%	先端欠損。

### 古銭

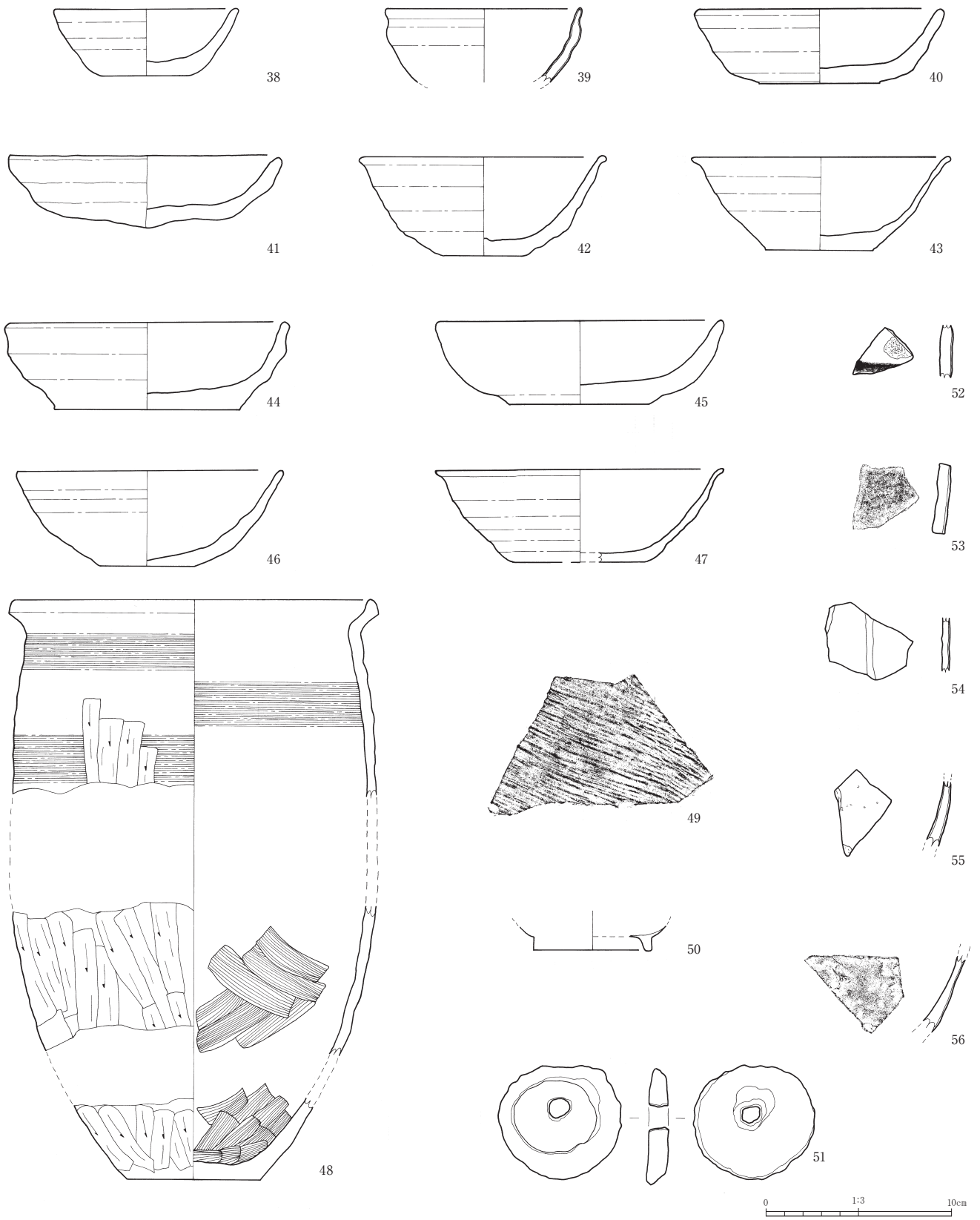
番号	遺構名	出土位置	器種名	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	残存率	備考
80	SK-193	B層	永楽通宝	8.5	5.8	1.2	100%	熱による熔解。
81	SK-193	B層	永楽通宝	—	2.5	0.1	100%	
82	SK-193	B層	永楽通宝	—	1.8以上	0.2	100%	熱による熔解。

表 11 出土遺物一覧表②

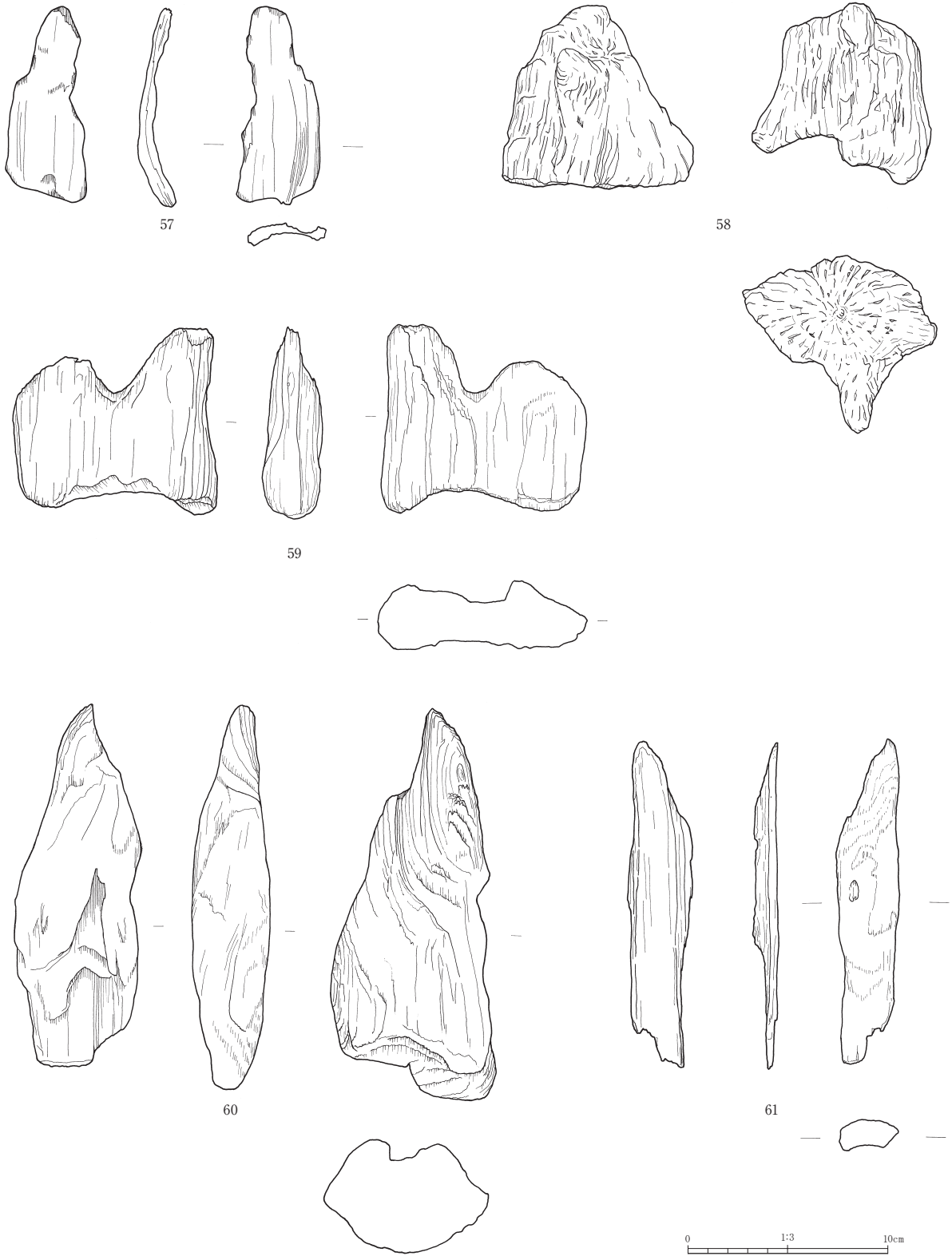


第 20 图 出土遺物② (1:3)

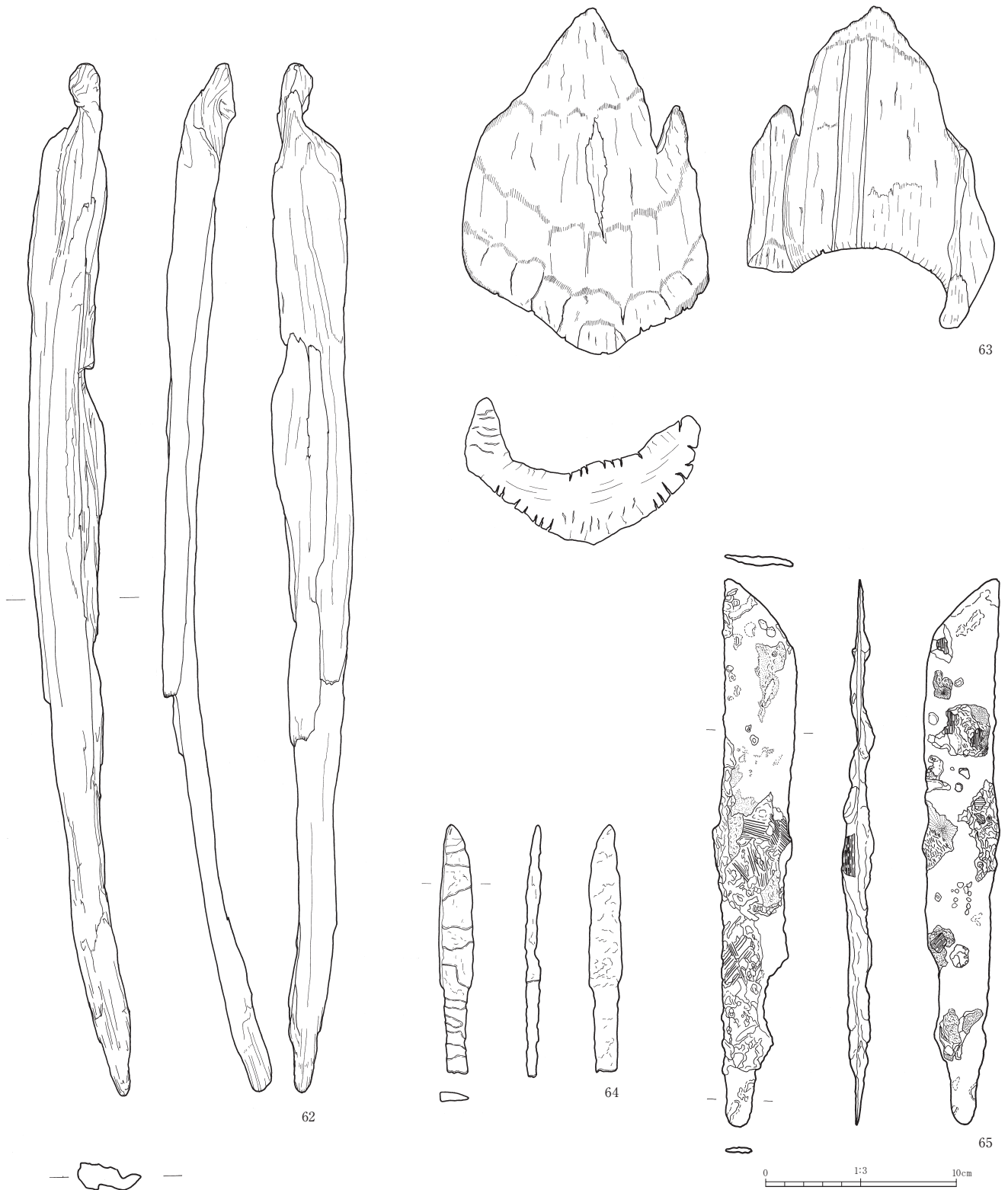




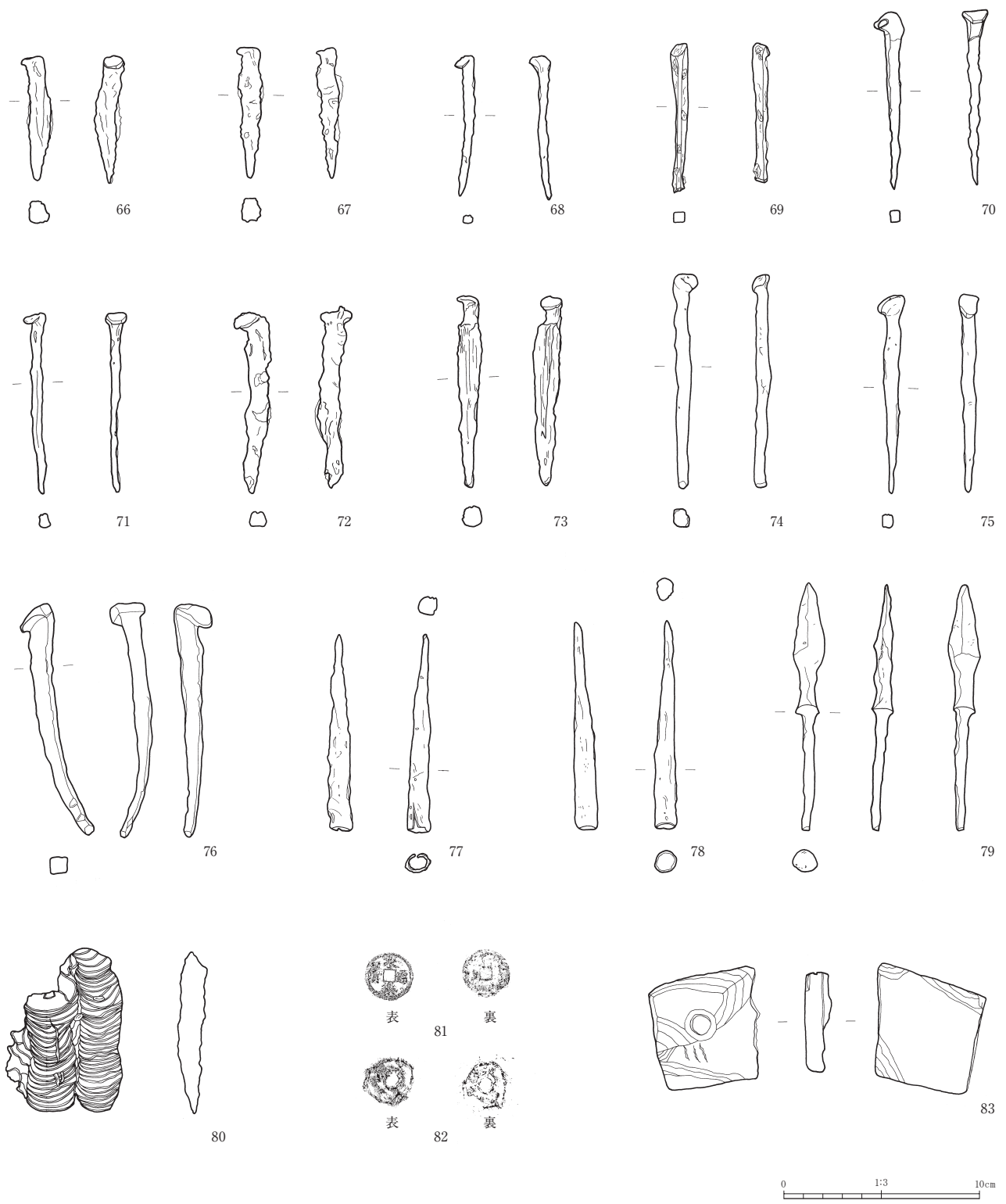
第 21 图 出土遺物③ (1:3)



第 22 图 出土遺物④ (1:3)



第 23 图 出土遺物⑤ (1:3)



第 24 图 出土遺物⑥ (1:3)

## 5 総括

比爪館遺跡は、第30次調査（平成24年度）まで実施している。今回は、2か所を調査した。第31次調査では、SI-071 竪穴住居跡1棟、SD-052～SD-057 溝跡6条、SK-182・SK-183 土坑跡2基、P-01～P-08 柱穴8口の遺構を検出した。出土遺物は、かわらけコンテナ1箱、土師器坏・甕、あかやき土器坏・甕、北陸型甕、中国産磁器、須恵器大甕、その他合わせてコンテナ2箱である。時期は、出土遺物からSI-071、SD-057は平安時代（9世紀頃）、SD-052～SD-056、SK-182・SK-183は中世（12世紀頃）に属すると思われる。

第32次調査では、SI-072 竪穴住居跡1棟、SE-038～SE-041 井戸跡4基、SD-058～SD-064 溝跡7条、SK-184～SK-193 土坑跡10基、P-01～P-044 柱穴44口の遺構を検出した。出土遺物はかわらけコンテナ6箱、須恵器坏・甕、土師質土器、あかやき土器坏・甕、土製品、国産陶器、中国産磁器合わせて、コンテナ2箱、木製品、鉄製品、石製品、釘、古銭、その他合わせてコンテナ3箱である。時期は、出土遺物からSI-072、SE-038～SE-041、SD-058～SD-064、SK-184～SK-192は中世（12世紀頃）、SK-193は室町時代（15世紀頃）に属すると思われる。

### ・ 竪穴住居跡

SI-071（31次）は、平安時代の隅丸方形の竪穴住居跡である。遺構は調査区南側に1/5残存し、規模は一辺が約4mをはかり、中型に分類される。堆積状況は単層（上層は削平）でA1・A2に細分する。竪穴住居跡東隅にPitを有し、その底面からあかやき土器坏（押し潰されて割れているがほぼ完形）が出土している。今回は、遺構検出面が少なかった為、詳細は分かりかねるが、これまでの周辺調査と出土遺物から考えると、カマドは南・東辺に構築されていると思われる。

SI-072（32次）は、平安時代の隅丸方形の竪穴住居跡である。遺構は調査区中央南東側に位置し、規模は一辺が約2mをはかり、小型に分類される。東側に焼土が広がっており、カマドは東側辺に構築されていると思われる。

### ・ 溝跡

SD-052～SD-057（31次）は中世の溝跡で、SD-056・SD-057は幅広の溝跡であるが、人為的に埋め戻し新たにSD-053・SD-054 溝跡を構築し、掘った土を東側に盛土し土塁状に成形されていた。2条に関しては、同じ構造で構築されている。しかし、検出面は1m幅なので、性格、目的等は今回の調査では分かりかねた。遺物はかわらけが出土している。今後延長方向を調査が出来れば、詳細を知ることが出来るであろう。SD-055は平安時代の溝跡の埋土から、あかやき土器坏・甕、北陸型甕などが出土している。今回比爪館跡から、形状は底部が丸底状で全体形が砲弾型を呈す北陸型甕（体部、底部片）が出土したことは稀であり、北陸地方との物流のルート及び交流を示す資料として、貴重な資料を得た。

SD-058～SD-064（32次）は中世の溝跡である。各溝跡の埋土から多くのかかわりが出土している。また、SD-059は外大溝に突き抜けているが、ほかの溝跡は途中で途切れている。このことから排水機能を待たない、区画溝の可能性が高いと考えられる。

## ・井戸跡

SE-038～SE-041(32次)は中世の井戸跡である。各井戸跡の埋土からかわらけが出土している。SE-038・SE-039は人為堆積と思われる。また、SE-040の底面から井戸枠の一部と思われる木材(桝板・隅柱)が見つまっている。

## ・土坑跡

SK-184～SK-192(32次)は中世の土坑跡である。SK-189から土師質土器が出土している。SK-193(32次)は戦国時代(16世紀)の土坑墓跡と思われる。埋土から多くの鉄釘(角釘)、小刀、鉄鏃、刀子、古銭(永楽通宝)などが出土した。副葬品と思われるが、土坑内に焼土がなかったことから他の場所で火葬され、この場所に埋葬されたと推測される。南部氏の家臣の可能性が考えられる。

## ・陥し穴状遺構

NO-028(32次)は埋土から遺物が出土していないので正確な時期は不明であるが、これまでの調査結果から縄文時代のものと推測される。

## ・柱穴跡

P-01～P-044(32次)は中世の柱穴跡である。また、掘立柱建物跡に成りうる柱穴は確認出来なかった。

## ・まとめ

第32次調査は、比爪館遺跡内東側の、ほとんど調査されていないエリアで実施した。以前調査を実施した隣接する第20次査と、今回の第32次調査を総合的に考えると、東側には掘立柱住居跡(住居エリア)は無く、井戸跡が集中して検出している事から、水汲み場のエリアと考えられる。また、調査区北側の溝から、鉄滓がコンテナ1/3出土している事から、作業場(鍛冶)のような施設があった可能性が高いと考えられる。

これまで比爪館遺跡の東側は、ほとんど調査が行われていなかったが、今回の調査結果から、その周辺にも何らかの施設があると推測される。今後の調査が注目される。

## 《引用・参考文献》

2008 岩手県教育委員会 「柳之御所遺跡－第65次発掘調査概報－」

2014 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 「不動館跡遺跡－主要地方道二戸五日市線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査－」

1987 盛岡市教育委員会 「盛岡城跡－昭和60年度発掘調査概報－」

1999 盛岡市教育委員会 「前野遺跡－浅岸地区土地区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書1－」

1995 平泉町教育委員会 「平泉遺跡群発掘調査報告書第47集」

2011 羽柴直人 「東日本初期武家政権の考古学的研究－平泉勢力圏の位置付けを中心に－」

1992 紫波町教育委員会 「比爪館－第9・第10次発掘調査報告書－」

2004 紫波町教育委員会 「比爪館－第8次・第19～22次発掘調査概報－」

2013 紫波町教育委員会 「比爪館跡－第28次・第29次発掘調査報告書－」

2013 紫波町教育委員会 「比爪館跡－第30次発掘調査報告書－」



# 写真図版







第 1 図版 比爪館遺跡 空撮（南から）





第 31 次調査区 全景  
(東側から)



第 32 次調査区 全景  
(北側から)



第 32 次調査区付け足し  
全景  
(北側から)





SI-071 竖穴住居跡 完掘 (東から)



SI-071 竖穴住居跡 断面 (北東から)



SK-182 土坑跡 検出状況 (北から)



SK-182 土坑跡・SD-057 溝跡 断面 (北から)



SK-183 土坑跡 完掘 (北から)



SK-183 土坑跡 断面 (西から)



SD-052 溝跡 完掘 (北から)



SD-052 溝跡 断面 (北から)





SD-053 溝跡 完掘・断面（北から）



SD-054 溝跡 完掘・断面（北から）



SD-055 溝跡 完掘・断面（北から）



SD-056 溝跡 完掘・断面（北から）



SD-053・SD-055 溝跡の土塁（西から）



SI-072 竪穴住居跡 出土遺物①



SI-072 竪穴住居跡 出土遺物②

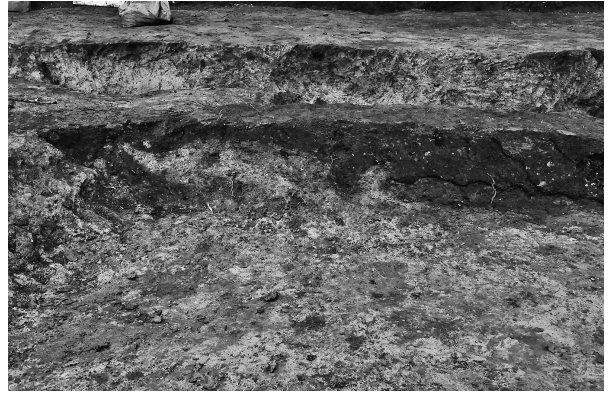


SI-072 竪穴住居跡 出土遺物③





SI-072 竪穴住居跡 完掘（東から）



SI-072 竪穴住居跡 断面①（東から）



SI-072 竪穴住居跡 断面②（東から）



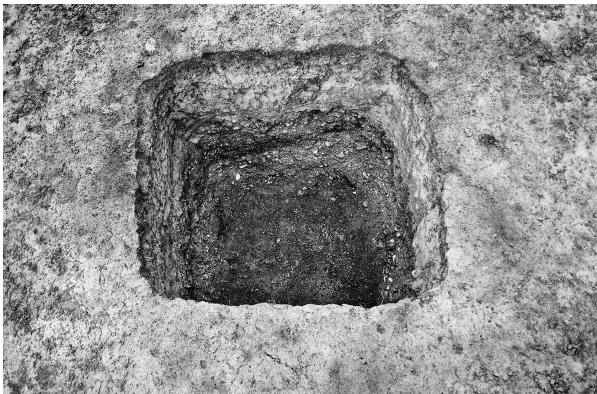
SI-072 竪穴住居跡 断面③（東から）



SI-072 竪穴住居跡 出土遺物①（東から）



SI-072 竪穴住居跡 出土遺物①（東から）



SE-038 井戸跡 完掘（南から）



SE-038 井戸跡 断面（南から）





SE-039 井戸跡 完掘 (南から)



SE-039 井戸跡 断面 (南から)



SE-040 井戸跡 完掘 (南から)



SE-040 井戸跡 断面 (南から)



SE-041 井戸跡 完掘断面 (東から)



SE-041 井戸跡 完掘断面 (西から)



SE-040 井戸跡 出土遺物① (南から)



SE-040 井戸跡 出土遺物② (南から)





SD-058・SD-059・SD-064 完掘（南から）



SD-061・SD-062 完掘（南から）



SD-063 完掘（南から）



SD-061 断面（北から）



NO-028 陥し穴状遺構 完掘（北から）



NO-028 陥し穴状遺構 断面（北から）



SD-058 溝跡 出土遺物（南から）



SD-059 溝跡 出土遺物（南から）





SD-061 溝跡 出土遺物① (南から)



SD-061 溝跡 出土遺物② (南から)



SD-061 溝跡 出土遺物③ (南から)



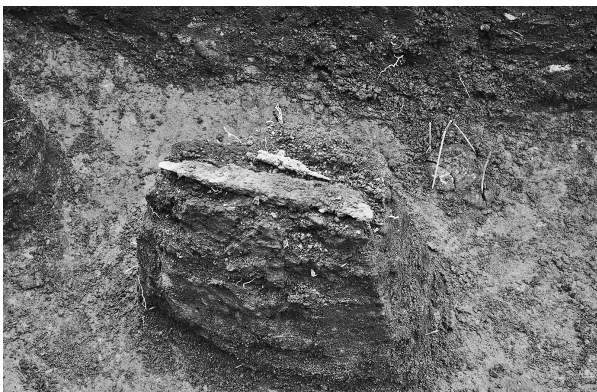
SD-061 溝跡 出土遺物④ (南から)



SD-062 溝跡 出土遺物 (南から)



SD-063 溝跡 出土遺物 (南から)

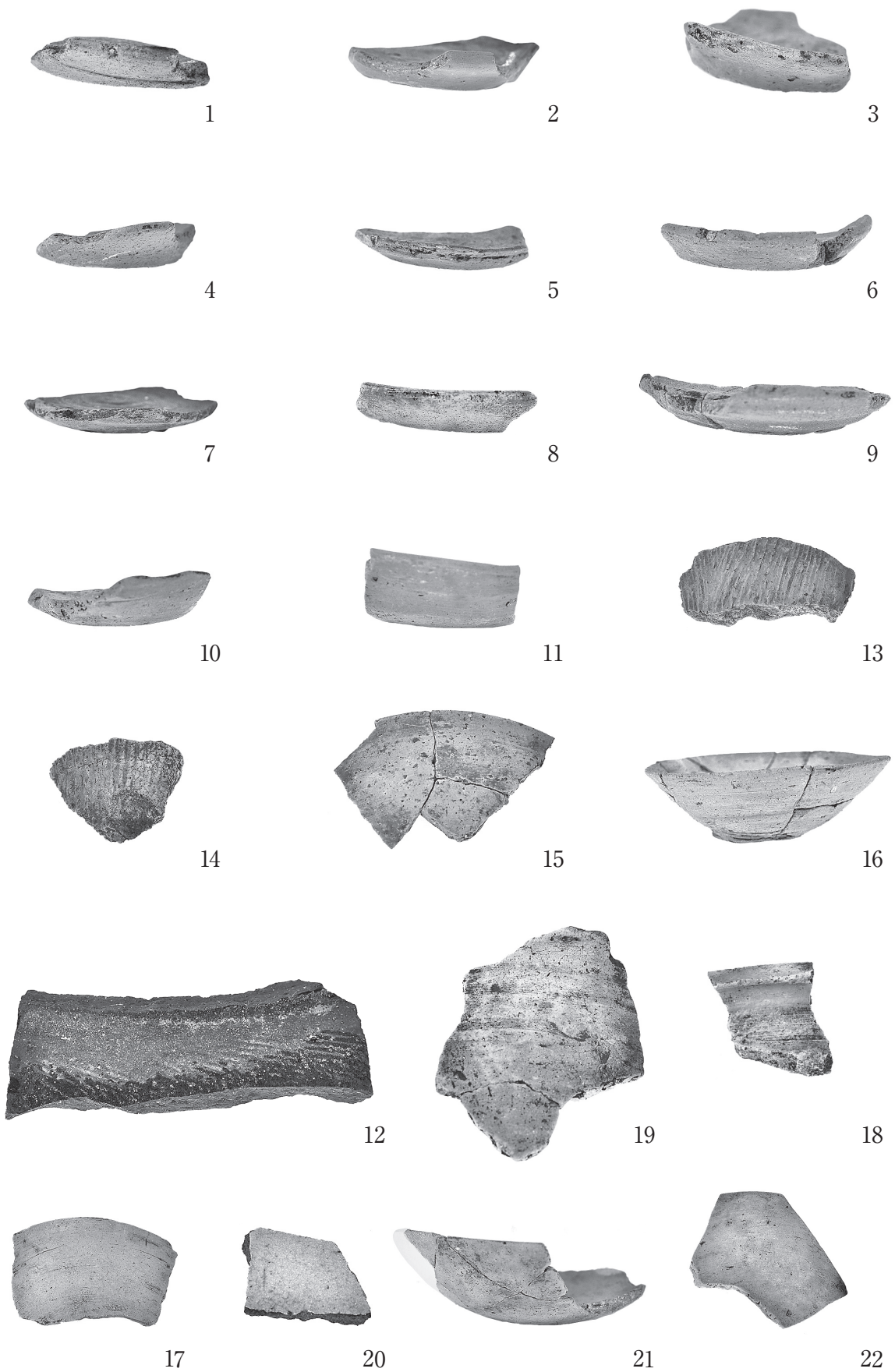


SK-193 土坑跡 出土遺物① (東から)



SK-193 土坑跡 出土遺物② (南から)





第 9 図版 第 31 次調査 出土遺物①



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



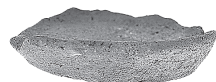
17



18



19



20



21



22

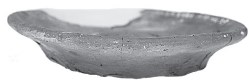


23



24





25



26



27



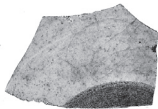
28



29



30



31



32



33



34



35



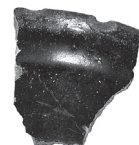
36



37



38



39



40



41



42



43



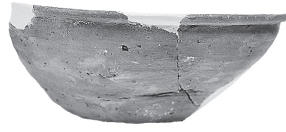
44



45



46



47



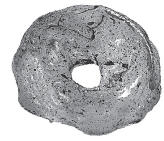
49



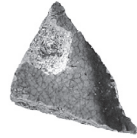
48



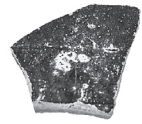
50



51



52



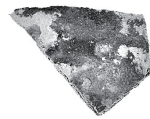
53



54



55



56



57



61



60



表

58



底



表

59



底



表

63

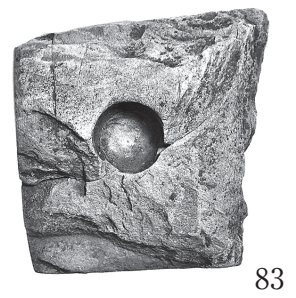
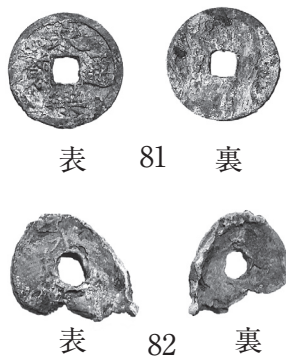
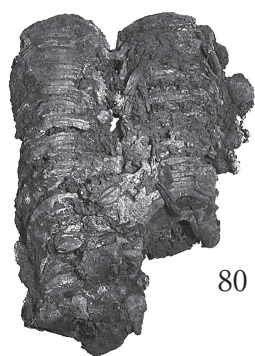
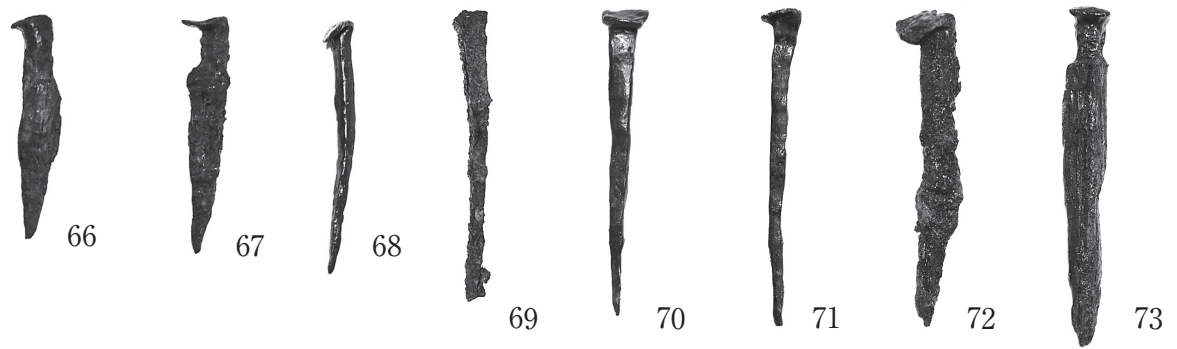


裏



62





# 抄 録

ふりがな	ひづめだて だいさんじゅういちじ・だいさんじゅうにじはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	比爪館 第31次・第32次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	紫波町埋蔵文化財調査報告書 2014							
シリーズ番号								
編集者名	鈴木賢治							
編集機関	紫波町教育委員会							
所在地	岩手県紫波郡紫波町日詰字下丸森 24-2							
発行機関	学校法人紫波学園・紫波町教育委員会							
発行年月日	平成 27 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひづめだて 比爪館 だいじ 第31次	いわてけんし わぐん 岩手県紫波郡 しわちようみなみひづめ 紫波町南日詰 あざほこしみず 字箱清水172-1	03321	LE77-0087	39° 32′ 03″	141° 09′ 45″	20130826 ～ 20130913	162㎡	公共水道 管路新設 埋設工事 の為
だいじ 第32次	いわてけんし わぐん 岩手県紫波郡 しわちようみなみひづめ 紫波町南日詰 あざほこしみず 字箱清水130-3			39° 32′ 07″	141° 09′ 54″	20130924 ～ 20131202	660㎡	学校法人 紫波学園 による保 育所施設 建設工事 の為
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
ひづめだて 比爪館 だいじ 第31次  だいじ 第32次	集落跡	平安時代  (8c ～ 9C)  中世 (12C)  室町時代  (15C ～ 16C)	竪穴住居跡  溝跡  土坑跡  井戸跡	土師器 坏、甕  かわらけ  鉄製品  古 銭		吾妻鏡掲載  奥州藤原氏関連遺跡		

---

## 比 爪 館

### 第 31 次・第 32 次発掘調査報告書

---

2015 年 3 月 31 日

編 集	紫波町教育委員会 〒028-3305 岩手県紫波郡紫波町日詰字下丸森 24 番地 2 TEL 019-672-3362 FAX 019-672-1553
発 行	学校法人紫波学園 紫波町教育委員会
印 刷	(株)杜陵印刷 〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ二丁目 22 番 50 号 TEL 019-641-8000 FAX 019-641-8085

---



